



BATON ZONE

DEPARTURE POINT

8Q5G5F3F+2V



BATON ZONE

人生という長い道のり（レース）の中で
大人が子どもに夢を話せる瞬間は
限られています。

ここに生きる君たちと同じように生きてきた
みやま市で活躍している7人をこの本で紹介します。

これから多くの夢を追いかけていく君たちにとって
素敵な人生になることを願って…。

- # 1 松尾 昂明（競艇選手）・・・3
- # 2 宮崎 智文（デザイナー）・・・11
- # 3 小田 憲和（映画監督）・・・19
- # 4 ERIKA MATSUO（ジャズシンガー）・・・27
- # 5 長 麻未（アナウンサー）・・・35
- # 6 坂田 光（芸人）・・・43
- # 7 江口 雅也（モデル）・・・51

松尾昂明

競艇選手



まつお たかあき (ボートレーサー)

1985年5月24日生まれ みやま市山川町出身

八女工業高等学校卒

やまと競艇学校卒業 (競艇登録番号 4424)

高校時代の友人からの紹介により競艇選手をめざし、2007年若松競艇場にてデビュー

丸亀競艇場で初勝利後、2012年1月29日

芦屋競艇場での「G1 共同通信社杯第26回新鋭王座決定戦競走」でG1初優勝 (G1初優出)

福岡支部所属 A2級

まずは小学生の頃はどんなお子さんでしたか
 すごいひょうきんで目立ちたがりでした。
 兄がいて僕が末っ子で暴れん坊みたいな・・・
 そんな感じでした。4～6年生まで
 ミニバスケットをやっていて、習い事は習字を
 やっていました。

スポーツ万能タイプでしたか

いいえ全く (笑)

バスケも全然上手な方じゃ無かったですよ。

中学生の時はどう過ごされていましたか

中学3年間はほとんど勉強しかしていません
 でした。当時、偏差値60以上もある久留米
 高専をめざしていましたので。

中学生の時から久留米高専という目標を持たれ
 ていた訳ですが何かきっかけがあったのですか
 TVでロボットコンテストを見たことがきっかけ

で、ロボットに興味を持ち高専を目指しました。
 一応、部活はバスケット部に入っていましたけど、
 ほとんどやらずに勉強一筋の日々でした。

恋愛も全く無かったですか (笑)

はい、無しです (笑)

中学校3年間勉強一筋で頑張ったのに久留米
 高専に受からなかったのですか

はい。本当に落ち込みました。久留米高専に
 入るために3年間勉強漬けの毎日だったので。
 でも、落ち込んでばかりいられないので第2
 希望の高校を受験して受けました。

高校時代は、どう過ごされていましたか

中学校の反動からか遊んでばかりでした (笑)
 友達と遊ぶために高校に通っていた記憶が
 あります。女の子に興味を持ちだしたのもこの
 ころですね。全敗していましたが (笑)





高校時代は進学や将来のことは考えていましたか

高校入学した時は、将来は適当に就職して、何でもいから働こうって思っていました。でも、高校生活があまりにも楽しかったので、まだまだ「遊びたい!!」っていう欲求から学生時代を延長できる大学という選択をしました。

進学先は福岡大学ですけど勉強しないと入れませんよね

私の通っていた高校に推薦枠があったので推薦で入学しました。でも入学したら周りが進学校から来た奴らばかりでしたので、全く勉強はついていけませんでした。

大学生活はいかがでした

もう遊びまくりの毎日でした(笑)

そんなに遊んでばかりだったら進級も危なかったんじゃないかったですか

はい、「留年」という危機に陥りました。本当にヤバイなど。そんな時にある友人から「競艇受けてみたら?」と言われました。

急に競艇ですか(笑)

はい、高校時代の友人が紹介してくれた女の子に言われたんです。

その女の子のお兄ちゃんが実は競艇選手で、僕の体型を見て競艇選手に向いていると直感的に思ったのか勧められました。まあ、そのお兄ちゃんこそが、将来、僕の師匠になる人なんですけどね。

そんな出会いがあったんですね。師匠というのは中辻選手のことですか

はい、そうです。



高校時代の友人がたまたま中辻選手の妹さんを紹介してくれなかったら、「競艇」には行き着かなかったということですか。でも、いくら勧められても普通は「いやいや急に競艇なんて」となりませんか?昔から競艇が好きだったということであれば別ですが

そうですね、漫画のモンキーターンは読んだことある程度で興味は全くと言っていい程、ゼロでした。

よく、そこで競艇試験を受けてみようとなりましたね(笑)

はい。「もしワンチャン受かったら大学辞めれるやん!!!」というノリでした(笑)

動機は不純でした。ただただ単位が危なくて。

大学で勉強するぐらいなら競艇選手目指した方がいいという発想に至ったわけですか

はい、そうです。今は変更になっていますが当時は競艇の入学試験は20歳までの制限が

ありました。なので、僕にとっては人生で1度しかないチャンスと思って、ダメ元で受験しました。

倍率40倍ともいわれる試験で何度もチャレンジする人だっているのに、よく受かりましたね(笑)

そうですね。ダメならダメでいいやという気持ちでした。あまり深く考えないタイプなので(笑)

でも、受験するのに身体的な制限もクリアしていないといけませんよね

はい。私の場合、体型は問題ありませんでしたが、視力が問題でしたのでレーシック手術をして治してチャレンジしました。

とてもすごいお話ですね。昔からなりたかったわけでもないのに手術してまで受験したんですね

そうですね(笑)僕は単純にどっちが確率が高いかな?という発想です。



大学の単位取るためだけに勉強するぐらいなら競艇試験に受かる確率の方が高いのかな。しかも、勉強する価値があるんじゃないかと思っていました。実は昔から郵便配達員やトラックの運転手のような「乗り物」に乗る仕事がしたいなと思っていました。

なるほど。確かに乗り物なのでコレで良いじゃないか！と思っちゃってチャレンジに至ったわけですね。しかし、チャレンジするにも費用がかかると思いますがどう工夫されたんですか

レーシック手術にもお金が必要だったので、居酒屋さんでバイトをして必死に貯めました。競艇学校に受かった時の入学金は、さすがに両親にお願いして借りました。

競艇学校試験に受かって、過酷な学校生活を過ごされるわけですが、遊んでいた日々から180度変わりますよね。苦しくはありませんでしたか

とにかく無心になって修行僧の如く頑張りました。

競艇学校生活で一番大変だったことは何でしたかそうですね……。身体は全然大丈夫だったんです。ただ、教官からの精神的なプレッシャーが一番きつかったですね。今思うと壮絶な世界に身を置くので、中途半端な気持ちでやるなどという意味でのプレッシャーだったと思います。

競艇という厳しい世界の割には学校生活が1年というのは短いんですよね

はい。到底1年では習得することはできませんし、実際にレースに慣れるのに3年はかかりましたね。

実際、競艇の世界に飛び込んでみていかがですか20代は、とにかく勝つことに貪欲で、レースで果敢に攻めることを楽しんでいました。30代となった今は、少し冷静に競技に向き合っているという感じで、しっかりと「仕事」として取り組んでいる感じです。選手生命をいかに長くするかが競艇選手として重要でもありますし、今後の自己成長を模索中という感じです。

実際、命を懸けてレースをされているわけですが恐怖はないですか

恐怖は常にありますね。実際、私の目の前で先輩が事故で亡くなるという事がありました。衝撃で気絶してそのまま水を飲んでしまっただけという事故でした。私もその日は怖くてレースに集中できない1日でしたね。学校で事故の危険性を学ぶ授業もあり、わかってはいたのですが、やはり目の当たりにすると全く違いました。

命を懸けている分、その対価が賞金となって表れてくるのですよね。業界年収2,000万円前後と言われる競艇の世界ですが、松尾さんご自身の今の年収はぶっちゃけどのぐらいですか
お答えできる範囲で結構なんですけど（笑）
全然、大丈夫ですよ（笑）だいたい2500万円ぐらいですかね。デビューしたときは450万でしたけど、3年目ぐらいから1000万円を超えましたね。4年目ぐらいは2000万円に届くぐらいだったと思います。

凄いですね。1年間でどの程度レースされていますか

1年のうち約半分は競艇場にいますね。1日2回走りすると年間300レース程走っているという感じです。

日本全国行かれているわけですが家にいる日数は年間どの程度ですか

移動も考えると年間100日程度が休みという感じですね。そう考えると普通のサラリーマンと同じぐらいになるかと思います。まあフライングすると30日休みになっちゃうんですけどね。（苦笑）
※インタビュー時、フライング休暇中でした。

先ほど伺った3年目から1000万越えてくるとお金の使い方が変わってくるのではないですか
いえ、最初のうちは親に借りていたお金を毎月返済していました。



あと、昔はボートのペラ（プロペラ）を自分で購入しなければいけなかったんですよ。今は違いますが、昔は2万円程するペラ（プロペラ）を自分で叩いて工夫してダメならすぐ廃棄するといった感じだったんです。なので、収入が上がってもペラ代に消えていました。年間100枚程買っていましたね。ダメなら、すぐ捨ててを繰り返していました。自分への投資だと思って、ほとんど収入は競艇道具につき込んでいました。

2012年に初めてG1レースに初優勝をされましたが、その時の賞金はおいくらでしたか？その時に特別に購入したものなどありますか
その時の賞金は1000万円でした。そこで、はじめての贅沢というか、ハーレー（大型バイク）を300万円で購入しました。

やっぱり乗り物なんですね（笑）
はい（笑）でも、ひとつの夢だったんですよ。25歳ぐらいでハーレー買いたいなって。

ひとつ夢が叶って嬉しいですね。松尾さんにとってのレースの醍醐味を教えてください
僕の場合、やっぱりスタートの瞬間ですね。勝った時も醍醐味ですけど、やっぱりスタート時の瞬間は普通の生活で味わえないですから。0.1秒の世界で駆け引きをしながら勝負しなければならぬドキドキ感は、今でも醍醐味ですね。

今を生きる子どもたちへメッセージをお願いします

本当に人生というのはわからないものです。僕の場合、中学校3年間で久留米高専に入学する為だけに一生懸命勉強しました。でも、結果的には不合格で本当に挫折を感じました。でも、そのあと進学した高校の友人の繋がりで見聞という世界と巡り合うんです。人生って不思議なもので、あの時、第一志望の久留米高専に落ちていなければ、今の僕は存在しなかったということになります。運命って決まっているのかどうかわかりませんが、とにかく目の前の事を一生懸命に取り組んで、失敗してもいいという思いでやっていくことが、良い人生に巡り合うきっかけかもしれません。

最後になりますが、松尾さんにとって「競艇」とは



僕にとって競艇は楽しくて仕方がないものです

なので、僕にとって競艇とは「命がけの趣味」です。



デザイナー 宮崎智文

みやざき ともふみ (デザイナー)

1975年4月7日生まれ みやま市山川町出身
日本デザイナー学院九州校卒

デザイン会社2社の経験を経て、2009年にトゥモローデザインを設立
グラフィックデザインのお仕事を中心に「ももいろクローバーZ」を初めとする

アーティストのロゴデザイン、写真集、グッズなどのデザインを担当

近年はスーパーフォーミュラ等のレーシングチームのマシンデザイン

2020年には旧山川南部小学校において一本校をモチーフとした壁画製作の監修・デザインを担当

コロナ禍でも人々を助けるために福岡市内において「マスクスタンド」の設置するなど多方面において活躍

**本日はお忙しいところありがとうございます
いつきてもカッコいい事務所ですね**
ほとんど遊び道具ばかりなんですけどね(笑)
ただ、好き勝手にリノベーションしたのは良い
んですけど、いつ立ち退きくらかヒヤヒヤ
しています・・・(笑) まだ入居者も増えて
いるからしばらくは大丈夫かな・・・と願っ
ています。

**まずはプロフィールの確認ですが
血液型は・・・、最近あまり聞いちゃいけない
ですよ(笑)**
血液型は言いたくないです(笑) この職業には
変わった人が多いので、平凡な自分が嫌で、
血液型を聞かれたら「AB型」と答えていた時
もありましたが、今は真面目に「A型」と答
えています(笑)

**まずは小学生の時ってどんな子どもでしたか
また習い事はされてましたか**
小学校の時は自分で言うのもなんですけど、
天然というか、クラスにいる面白い人というか
人気者だったイメージがあります。小学校の時
に身長も先に伸びるタイプで、足も速かった
のでリレーとか最後に走っていましたよ。
習い事は月並みですけど習字と剣道をやって
いました。

中学校の時も部活で剣道をされていたのですか
小学校の時に剣道やっていた連中が野球や
バスケットなどに行っちゃいましたが、私は他に
やりたい部活がなかったので、とりあえず剣道
を続けていました。でも、だんだんと部活自体
も嫌いになってきていて部活も学校も行きたく
ないなあと思っていて少し精神的にも落ちて
いた時期でした。今思えば、嫌々ながら部活を
続けなくて、もっと別の事に時間を費やして
いたら良かったと思います。

**子どもの時に、現在の職業に繋がるきっかけは
何かありましたか**
私の父親が西鉄電車で勤めていました。今も

ありますが電車の中吊り(広告紙)ってあり
ますよね。当時、父が不要になった中吊りの
広告紙を大量に持って帰ってきてくれていた
んですよ。好きなだけ落書きしていいよって。
当時、B3サイズで広告用の紙なのでとても
丈夫で上質な紙なんです。真っ白の紙に好き
なだけ描いていたので、きっと普通の子ども
より沢山の絵を描いていたと思います。

なるほど。確かに贅沢な落書き用紙ですね
今は時代的に完全NGかもしれませんが、当時
電車の中に落ちていた雑誌(漫画)も大量に
持って帰ってきてくれました。火曜日はジャンプ
水曜日はマガジンなど全部コンプリートして
くれていました。小学校低学年の時からジャンプ
・サンデー・マガジンと、ありとあらゆる雑誌
(漫画)を見て情報収集していましたので小学生
では仕入れることのできないイケない情報も
最先端で仕入れていましたね(笑)

**当時の小学生は1冊200円前後のジャンプを
回し読みするのに必死だったのに・・・。
それは凄いな環境ですね。**

でも、うちの両親は本などはよく与えてくれ
たりしたんですが、ファミコン(ゲーム)だけ
は教育上か金銭的か分かりませんが与えてくれ
なかったんですよ。なので、ゲームをしたい
ときは友達の家によくさせてもらいに行ってた
んですけど、すぐゲームオーバーになるんです
よね。だから家に帰って紙にオリジナルの
マップやキャラを描いて空想の中で遊ぶことを
よくしていました。思い起こせば想像力から
何かを生み出すことは、ここがルーツだった
かもしれませんね。

**お父さんが持って帰ってくれた本や中吊りの
落書き用紙や本が今の職業に影響しているわけ
ですね。**
そうですね。きっとそうだと思います。

高校時代はいかがでしたか

色々あって柳川高校に行くことになったんですけど、そこには自分が住んでる山川にはいないような福岡市内の都会の子たちが集まっています。本当に色んな人間の集合体だなぁって感じましたね。高校入ってからは最初のポジション確立が非常に重要ですよ。そこでイケてる人間に近づくために、ファッションに興味を持ちだしまして、常にファッション雑誌を読み漁っていました。ミーハーです(笑)

もともと読書好きということもあり研究熱心に勉強されたわけですね

そうですね。研究熱心というか本当に好きになると凄くハマっちゃうタイプなので、雑誌に限らず本は月に何冊も読みますし、今でもファッション雑誌は好きですね。高校時代も父の仕事先である西鉄電車の福利厚生で西鉄系列が乗り放題だったんですよ。なので、よく天神に行って古着屋に行ったり、メンズノンノの撮影会を見学に行ったり、本当にファッションにハマっていました。

高校時代は部活に入っていましたか

高校の時は美術部に入っていました。理由は地元山川出身の先輩が3~4人いて、知っている人が多かったので楽しそうだなと思ったのと、自分のクラスの担任が顧問ということもありましたので入部しました。振り返ると人生において、この美術部での3年間が本当にターニングポイントになったと思います。この顧問の先生がめちゃくちゃスパルタというか今じゃ考えられないほどの武闘派で「本当に文化系の部活なの？」というぐらい厳しいというか熱い人でしたね。しかも3年間ずっと担任でした。今じゃ考えられないと思いますけど、ずっと担任が一緒っていう……。僕、文系希望なんです。で、その顧問は数学の先生でバリバリ理系で。20数年前のことですから時効ではありますが、文系の希望が通らず担任が3年間ずっと変わらず一緒に考えられませんがね(笑) この顧問の先生は生活指導

の武闘派なのでクラスには必然的に問題児が集まってくるんです。その中に特にワルでもない僕がポツンといるみたいな(笑)

よっぽど美術部の愛弟子を側に置いておきたかったということでしょうか(笑)**そんな先生が顧問の柳川高校美術部は非常に歴史もあると聞いています**

そうですね。部活には絶対毎日行かないといけなくて、作業着を着て毎日油絵を描いていました。柳川高校ってスポーツが有名な学校なんです。でも、その顧問の先生は美術部でもスポーツの部活に負けないほどストイックで毎日厳しく指導してもらっていました。そのおかげで色んなコンテストにも出場して、いくつか賞も取れるようになりました。

例えばどのような賞を取られたのですか

最高で文部大臣賞を頂きました。その時は、朝の全体朝礼で野球部やサッカー部などが登壇するステージにポツンと美術部の私が混じって紹介してもらったこと覚えてます。

そういった成績もあってデザイナーの学校に進学することになったのですか

動機は、そういった賞ではなくて……。こう言ったら、ちょっと語弊もあるのですが、卒業していく先輩たちが2極化して行くんですよ。油絵を描き続けている人、それと就職や独立をしてデザイン系の仕事をしている人。よく先輩たちと会う機会があるのですが、油絵を描き続けている人はどこか職人気質の雰囲気がある一方で、デザイン系に進んでいる人は良い車に乗っていたり、身なりがオシャレだったりとか……。(笑) 生き方としてカッコよく見えてしまっただesign系に進もうって思っていましたよね。

毎日スパルタに油絵を描き続けていて名譽ある賞ももらっているのに油絵方面ではなくて、デザイン系に決めていたのですか(笑)

そうですね。高校卒業後は博多にあるデザインの専門学校行くことになりました。

日本デザイナー学院九州校での時代はどうでしたか

デザインの課題も多く、山川から福岡市内まで通うのが本当は大変だったので、1年生の途中から仲間内で学校近くの安アパートをルームシェアで借りて課題に取り込む場所にしようとしたのですが、もちろんそんな場所は絶好の溜り場となりまして、今思えば青春の詰まった場所となりましたね。でも、ちゃんと課題にも取り組んでいましたよ(笑)

専門学校後は、すぐに就職されたのですか

卒業して直ぐパッケージを専門とするデザイン事務所に就職しました。

社会に出てからはどうでしたか

最初就職した先は、とても給料が低く、大変な業務のある会社に就職しました。今でこそ

パソコンの中でデザインを起こして商品化にしていくわけですが、当時は客先の求めるパッケージデザインを手作りで作成してお客さんにプレゼンしていたんです。新人だった私は手を真っ黒にしながらスプレーや絵の具を使って毎日、先輩がデザインした商品のパッケージ作りをしていましたね。他の会社に就職した専門学校の同級生が徐々にデザインの仕事を独りで任せてもらえるようになっていく話を耳にし、自分はまだ何一つデザインらしい事ができてない日々が続いていて、焦りを感じていました。少し経つとデザインの世界でMacが浸透し始めて、会社も社運を掛けてMac部を設立したんですが、Macを使える人間がいなかった為、Macを持っていた私が配属することになったんです。

当時のMacはとても高価なもので少し普通の人は持っていませんよね

学生時代に割のいいバイトをしていたので、中古のMacを貯金して購入していたんですよ(笑)





なるほど。その Macのおかげで Mac 部に配属できたんですね。

そうなんです。ただ、与えられる仕事は先輩がアナログでデザインしたものをデジタル化するオペレーター的なものばかりで早く自分も次のステップに進みたいという気持ちの焦りが強くなってきました。それで、3年で辞めてしまうことになったんです。

その後、就職先とか決まっていたのですか

いえ、全くです。就職活動はしていましたけど、実は特に技術があるわけでもないの採用してくれる会社がなくて途方に暮れていました。そんな中、当時付き合っていた彼女（現在の奥さん）の先輩が会社を辞めたという事を知って、私をアルバイトとして雇ってくれました。その先輩はフリーランスのデザイナーだったんですが、退職前から、土日でも出来るような仕事を副業として依頼してくれてました。

そのデザイナーの方が社長さんだったのですか
そうです。スラッシュという会社だったんですが、私を誘った時は社長と2人きり体制でした。でも、そのうち会社がだんだんと大きくなり、最高では9人まで社員が増えて成長していきました。会社内では実質ナンバー2のポジションで11年間務めていました。

大きく成長した会社でナンバー2でやられていたんですね。凄くないですか

そうですね、デザイン系の業界で9名程の会社って結構大きい方になるんですよ。

そこでデザイナーとしてご活躍されていたんですね

そうです。今でこそ「デザイナー」という職種は色々やらなければいけないんですが、当時のデザイナーというのはチラシを作るだけの人やパッケージだけを作る人など、細かく細分化されていました。本当はウェブデザインをやりたいかったんですが、スラッシュではチラシ等の企業広告のデザイン関係をやっていましたね。

会社も成長し収入も大きく変わっていききましたか
スラッシュでは完全歩合性で、仕事を受注してきた分インセンティブとして給料に反映されました。月60万ぐらい貰える時もありましたね。

どういった仕事が多かったのですか

当時は携帯電話会社の仕事が多かったと思います。パンフレットやチラシを作成したり、料金表などを作成して顧客を獲得していました。携帯電話という商品が世に普及し始めるときだったので広告も多く、そのようなデザインの仕事を主にやっていました。

携帯会社のパンフレットやチラシはデザイン会社がお手伝いしていたのですか

今はどうかわかりませんが当時はそうでした。また、家電量販店に行くとき当時ドコモ・EZweb（現 au）・ボーダフォン（現ソフトバンク）が売り場を占領しあって顧客の獲得をしていたん

です。そういった売り場のポップだとかブースをデザインするセールスプロモーションという仕事を主にしていました。

なるほど。そういった仕事があるのですか

そうなんです。そこでだいぶ鍛えられましたね。携帯会社に使ってもらうために必死にデザインの勉強もして、顧客に気に入ってもらうために頑張りました。

他にはどんな仕事をされてきましたか

携帯会社関係以外にも家具メーカーのデザイン等、基本的にお客さんからの依頼やお願いを「絶対に断らない」というルールで、仕事に打ち込んでいましたね。

その後はどういった経緯で独立されましたか

スラッシュで仕事に打ち込んでいた時に転職が訪れました。柳川高校時代のクラスメイトが東京に行ってフジテレビに就職していたんですね。その友人は、フジテレビを退社後にスターダストプロモーションという大手の芸能事務所マネージャーとして働くことになったんです。転職のきっかけは、その友人からのデザインの依頼でした。

福岡にいるのに東京から依頼がきたわけですか
凄いですね

いや、その友人の同期の方が、スターダストプロモーションで広報をやっていてデザイナーを探していたので、友人である僕を紹介した。というだけです。

東京の超大手芸能事務所からの依頼はどんな仕事内容だったのですか

「ももいろクローバーZ」のホームページ作成の仕事です。当時はまだ、今のメンバーでは無く8人グループのユニットができたぐらいで本当に駆け出しの時だったんです。はじめましてのブログをやるからホームページを作ってくれないかというのが事務所からの依頼内容ですね。最初は、「なんだその仕事は・・・？」

と思いましたけど当時「断らない精神」で仕事をしていたのでとりあえず受けました。実は、今の「ももクロ」のロゴは私のデザインが残って使用されています。

それから仕事が舞い込んでくるようになり独立していったのですか

最初はよく解らない話だったから会社を通さずに空いた時間に個人で受けてデザインしていたんです。しかし、スターダストプロモーションという事務所は営業的にかなり攻めていて、毎月本を出すことになっていて、徐々に個人で受けるキャバを超える仕事量になってきたんですね。自分と連絡が取れないからと言って東京の大手事務所からスラッシュの会社にFAXや電話が鳴り響き……。だんだんと周りに迷惑がかかってしまって、示しがつかなくなってきました。そこで11年務めた会社を辞めて独立していくことになりました。

そこから独立して、トモローデザインを設立し本格的に芸能関係の仕事されるわけですね

そうですね。当時は芸能人たちが自身のブログを立ち上げることが始まった時でしたので、そういったウェブ系の仕事をメインでやっていました。今は既に残っていませんが、有名どころで言うと、岡田将生さんや、濱田岳さん、窪田正孝さんなどのブログを作っては世に出していましたね。



また、モデルの梨花さんのブログやホームページもずっと制作していました。

凄いですね。名前を聞くと大物ばかり

当時はまだ無名だったので、「売り出したい子」ということで事務所がPRに力を入れていました。お陰様で仕事が多いのは嬉しかったんですが、仕事量に対して予算がある仕事が少ないので、設立当初は本当に苦労が多かったですね。

突然ラッシュを越えられたので独立の準備ができていなかったのですね

そうなんです。独立したばかりの頃は安定した収入がもらえる体制が出来ていなかったのでも覚えているのが妻から「今月給料いくらあると？」と聞かれて答えられなかった時です。フリーランスなので安定した給料はありません！なんて言えなかったですね。

苦しい時を経て、会社設立から現在に至るまでいかがでしたか

設立当初はスターダストの仕事ばかりやっていたんですけど、徐々にその実績が広がっていったというか、ライザップやマクドナルドなど、色々な仕事を頂けるようになりましたね。芸能プロダクションや代理店などに勤めていた人が辞めて別の会社に転職されて、またそこで案件を頂くようになり周りが徐々に広がっていった仕事に繋がるという感じになってきましたね。

手がけたデザインが有名になっていって宮崎さんの会社の評価も上がっていきわけですね。

最初は「ももクロ」なんて誰も知らなかったのに、次第に大きくなって姉妹的な存在まで出てくるようになっていきましたね。自分がロゴを作っているもんだから私に姉妹のアイドルユニットとかの仕事も徐々に来ようになりましたよ。他にもF1レーシングカーのデザインでは毎月ヨーロッパなど海外にも行くようになったり、色々なことをするので、周囲の人たちから、

「何で福岡の小さい事務所がこんな仕事しているんだ」と、不思議に思われていました。

不思議な縁というか。宮崎さんの独立のきっかけとなるのはスターダストのお仕事ですよね。そのご友人との出会いがなかったら今に至らないわけですね

思い起こせば美術部に入学し、スパルタ顧問のもとに集まるクラスメイトの一人と友達になり、大人になってからも仕事で繋がっていかなければ、今に至らないということになりますね。きっかけは本当に不思議な繋がりでですね。

今後の目標などあれば教えてください

デザインって実は非常に消費されやすいんですね。パッケージにしたって商品化されて消費されればいつか無くなる。だから、これからは「残っていくもの」を作っていけたらと思っています。何というか、人間というのは、「運命」を自分の手で変えたい生き物なんです。例えば医学の進歩がそうです。病にかかれば死んでしまうはずだったことが医学の発達によって死ななくて済むようになった。これは、人間が勝ち取った運命を変える手段なんですね。デザインという分野ではこんなことは出来ない気がするんです。なので、今の夢は1人でもいいから「自分のデザイン」によって「運命」を変えることができたらと思っています。

宮崎さんにとってデザイナーとは

目的地に対し最適なルートを、お客さんと依頼主と一緒に話し合いながら、そこへたどり着くために、お手伝いをする案内人。と言った所でしょうか。例えば事業に行き詰まりを感じているからそれを解消するために策を取る事が良くあると思いますが、全ての物事には問題が先ではなく目的が先にあるんですね。デザイナーの仕事も例えばバツとしない商品があってそれをお洒落なパッケージにしたといったケースが良くあります。しかし、果たしてその考えは正解でしょうか？

もしかしたら問題はパッケージ以外の所にあるのかもしれませんが。目的は売れる商品にする事でありパッケージの刷新は一つの手段でしかありません。もしかすると解決策は広告だったり販路開発だったりするのかもしれませんが。そういう意味では、デザイナーとは、その目的地への到達する最適な方法をビジュアル化し、具現化して案内する仕事だと思います。



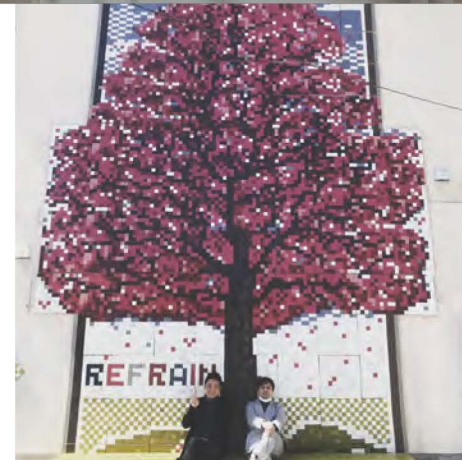
今の夢は1人でもいいから



「自分のデザイン」によって「運命」を変えることができたらと思っています

子どもたちへメッセージをお願いします

好きなことは、続けていくこと。夢を実現したいのだったら続けていくことが何よりも大事。そして、それを世に出して、色々な人に評価してもらおうことが大事なんです。デザインの業界は何を言われようと、恥をかいてでも世に出して、人に見てもらい評価してもらわないと意味がないんです。自分の好きなことだけを、ただやっているだけでは、いつか好きじゃなくなる。大好きだった絵を描くことが、仕事になっていくと、いつか嫌いになってしまうようになる。だから、仕事は仕事で嫌なことも続けてやる一方で自分が楽しめる場所をみつけて世に発信して人に見てもらおうことが大事です。



小さい頃はどんな子どもでしたか
 いたって真面目で静かなタイプの子でしたよ。
 クラスの中いる、真面目で勉強好きな子でし
 たね（笑）

小さい頃は習い事などはされていましたが
 塾は中学校から通ってましたね。小学生の
 最初のころは勉強がそこまでできなかったん
 ですが、問題が難しくなるにつれて、解くこと
 が楽しくなり勉強が好きになっていきましたね。

小学生の頃は塾以外に習い事はやっていましたか
 母が習字の先生だったので習字をやっていま
 した。あと、ピアノも習っていました。

中学校の頃に何かスポーツをやっていましたか
 ソフトテニスをやっていましたね。割と真剣に
 取り組んでいましたよ。

小中学生の時に今の職業に繋がるきっかけは
何かありましたか
 きっかけは中学校の頃に「ロード・オブ・ザ・
 リング」を見て、映画って面白いなと気づいて
 映画を観ることが好きになっていました。

高校生になってからはいかがですか
 本当に普通の人の何倍も観ていたと思います。
 「SAW(ソウ)」を見てからサスペンス系にも
 ハマって大どんでん返し系の映画も割と好き
 になって観ていましたね。

高校は伝習館という進学校ですが、映画を観る
時間はありましたか
 もう暇さえあれば映画館に行ったり、レンタル
 ショップで映画を借りたりしていました。本当
 に好きでしたね。

高校の時に具体的な将来像は描いていましたか
 全くですね。本当にゲームとかもハマっていて

遊んでばかりでした。テスト前だけちょろ
 っと勉強しとこうみたいな生活でした。
 両親が学校の先生だったんで、まあ将来は学校の
 先生にでもなるかあめ的なことは少し思って
 いた記憶があります。教員をしながら、自分で
 小説を書いたりするのも良いなあと考えていま
 したね。

九州大学にストレートで入学されています
やはり勉強は得意な方でしたか
 負けず嫌いな性格から勉強だけは集中してやる
 ところがあるというか、やればやるほど成果が
 出ていたので、勉強が好きになっていきまし
 たね。また進学校ということで、頭の良い子が
 周りにも沢山いたので、競いあったりして。
 おかげで、部活も遊びもそれなりにやっていま
 したけど、学年でも学力は上位にすることが
 できました。

伝習館で上位って凄いですけどね（笑）
 でも、人生はそんなに甘くなくて……。
 今まで九州大学はA判定だったんですよ。
 それがセンター試験では全くの圏外になり、
 原因不明でとても落ち込みました。周囲の
 連中の学力が急激に良くなったのか、センター
 試験で緊張して自分に原因があったのか……。
 それでも、切り替えて2次試験を受けて何とか
 合格することができました。

大学に進学されてからはいかがでしたか
 大学入ってからは芸術工学部にいたんですけど、
 特に何か始めることも無く、友達と遊んだり
 麻雀をやったりと大学生活を楽しんでいま
 したね（笑）ただ、2年生になる前に今度入学
 する1年生向けのガイダンス映像（学校紹介
 ムービー）の制作依頼があって、少しやって
 みたところ意外と楽しいと感じ、映像制作に
 興味を持ちました。特に編集に興味を
 もったので、2年生の時に映像サークルに
 入りました。

映画監督 小田憲和

おだのりかず（映画監督）

1988年8月28日生まれ みやま市山川町出身
九州大学大学院卒

大学在学中より映画制作を開始

制作当初より、短編を中心に、数多くの映画祭で入選・公式上映
中国の第7回中国西寧FIRST青年映画祭では、1004本中の10本に選出され
最優秀音楽賞受賞・最優秀撮影賞・最優秀編集賞ノミネート

2018年「翔べない鳥も空を見る。」劇場公開
いじめ・SNSを題材にした同作は、福岡市内の中学校や小学校で道徳教材としても上映される
気鋭の映画監督のひとりとして、今後の活動が注目されている
スマートフォンやSNSなどのデジタルツールの作品への効果的な登用に定評がある。

そこで映像に興味を持ちだしたんですね

そこで好きなアーティストのPVとかを作って編集したりしてましたね。2年生の夏には3年生対2年生のショートムービー製作大会があって、はじめて脚本も書いて熱中して作りました。あと、サークルに入ると作品に出演しなきゃいけないって、それが嫌で「監督」業務の方にシフトしていくようになりました。

出たくなかったんですか(笑)

そうです。監督をやれば出なくて済むという発想です。(笑)

大学生の時はどういった映像作品をつくってましたか

その当時「作品=大どんでん返し系」じゃないと面白くないという発想だったので、そういったものばかり作ってました。ロマンス系や人間の感情を表現するジャンルは全くなかったですね。

ショートムービー製作大会の結果はどうだったんですか

実はその時、サークル自体が空中分解しそうになって、3年生とかは全然映像作って無かったですよね。本当は、サークル自体が無くなるかもという所だったんです。そこでサークル内で一番しっかり活動しているのは誰かって話になって・・・。2年生の途中から急遽、部長になってしまいました(笑)

部長になってから、映像を本格的に作り始めていくわけですね

そうです。もう、アドレナリンが出まくって、作ることが楽しくなっていました(笑)

でも、制作費用がかかってきますよね。特に学生時代って予算が厳しいんじゃないですか

いえ、仲間内だけで作っていて、上映会も自分たちでやっていましたので、特にお金はかかりませんでしたよ。カメラも先輩から借りて編集も自分たちでやっていましたので。

大学4年生になって就職活動はされましたか

一応、4年生になって就職活動はやりましたけどその時作っていた卒業制作の映像をしっかり完成させたいなという気持ちが大きくて、このまま就職するより、一旦大学院に行こうと決めていました。

大学・大学院生活の中で「映画監督」という職業を決めていった感じですか

いえ、そういうわけではないですね。ただ映像を作り始めて、TV局からもCM制作の依頼とかも頂いていたので、就職活動することより、映像関係の仕事をやりたいなと思っていました。ただ、色々制作していく中で、色々な人と出会うんですね。そして出会った人たちは決まって、どんどん東京に引っ張って行きます。それを目の当たりにしていたら「これじゃダメだ。俺まで

東京に行ったら何も変わらないぞ福岡は！」と書いておいて(笑)

映像関係の仕事をやろうと思えば、東京や都会でチャレンジしたいと思うのは普通だと思いますけど

何か、場所って関係無いって思う自分がいたんですね。東京に行ったから何?っていう。福岡でも十分勝負できるじゃんって。何の根拠もない自信ですけど(笑)

まだ20代前半で、その揺るぎない自信は凄いですね

一応、大学院時代にも仕事は少しずつもらっていたので、絶対福岡を離れずに成功してやろうって思っていましたね。

ご両親は反対されませんでしたか

九州大の大学院まで出たんだから、そこまで反対とかはありませんでした。もう大人なんだし、自分のやりたいことをやってみて、ダメだったら、また考えればいいんじゃないという感じでしたね。

卒業して実際に映像の仕事をしていくわけですがいかがでしたか

現実の厳しさを知りました。卒業した後は仕事が無くて・・・。また人間関係でもトラブルに巻き込まれて・・・。社会人1年目は最悪でした。

映像を制作をするにあたって、出演者等はどのように決められていたんですか

福岡の芸能事務所に自分で足を運んで、使わせてくださって交渉するんですよ。

監督、自らですか

そうですね。当時、僕の映像に出てくれていた子たちは、予算がないことを知っているのので友情出演で出てくれていました。

例えばどなたですか

女優の奈緒ちゃんや、今田美桜ちゃんとか。最近映画にも出ています福山翔大くんも、お願いして僕の作品に出演してくれました。

ええええ!? 凄いですか!

(みやま市での撮影映像を見せてもらう)

普通に、みやま市の山川町で撮ってましたよ。僕の実家とかでも撮影したりして(笑)

奈緒ちゃんや今田美桜ちゃんが山川町に来てたんですか!? ええええ!? あの奈緒ちゃんが!?

当時は、東京に行く前で、福岡の事務所に所属してましたから、仲良くさせてもらっていたんですね。その時に、PVの撮影があったのでお願いしたら快くOKしてくれました(笑)

今は、到底無理でしょうけど(笑)



**映画監督って、本当に自分でアプローチして
お願いするんですね**

僕一人ですからね。自分が作りたい作品があるから出てくれないかと言ってお願いするんです。

**友情出演にせよ、やはり映像制作にはお金が
かかるんじゃないですか**

いやいや、当時カメラ1台とか作っていましたので、本当にお金かかってませんよ。

**でも収入が無いのに撮影していくというのは
本当に大変ですね。もう情熱で動いていく
みたいな感じですね**

そうですね。当時は費用がかけなくても自分が作りたいものは作品として残していくという気持ちでやっていました。そうすると徐々に企業からの依頼も頂けるようになって、ゼロだった収入が一気に増えるということもありました。JR ななつ星の案件でしたけど、1~2ヵ月程、専属のメイキング映像制作の仕事をして100万とかの収入に繋がりました。当時の僕にしてみれば高額な報酬だったのを覚えています。

**監督としても評価をもらえるようになってきた
ということですね**

そうですね。当時、みやま市山川南部小学校が廃校になるということで撮影場所として使用して映像に残しました。それが、「ぼくたちはここにいる」という作品なんですけど、これが中国最大規模のインディーズ国際映画祭で、1004本のうち10本に選出され、最優秀撮影賞ノミネート、最優秀編集賞ノミネート、最優秀音楽賞受賞しました。

**ふるさとで撮影したものが評価されることは
大変うれしいことですね**

もっと、みやま市で上映して知ってもらいたいですよ(笑)

**小田さんの作品は学生のいじめであったり
SNSを題材にされるイメージがありますが、
元々そういった人間の本質に迫る題材にも興味
があったのですか**

本当に大どんでん返し系とかが好きでやっていたんですけど、大学4年生の時に映画の題材をしっかりと考える転機が訪れまして。

どういった転機ですか

大学の仲いい友人で「望月ゆうさく」という友人がいて、たまたま大学で知り合ったんですが、彼はジャグリングで世界3位になるような凄い人で、TVにもよく取り上げられていたんです。そんな彼から大道芸の話をよく聞いていたんですね。それが結構、奥が深いというか、誰も知らないような世界がそこにはあって、それをどうにか映像にしてみたいと思うようになりました。人の知らない世界を映像として表現することに重要性を感じるようになりましたね。

そこで作品作りに転機が訪れたんですね

そうですね。その作品のクライマックスは、「母校の伝習館で撮りたい!」と思って伝習館の体育館で撮影したんですよ(笑)でも、最初めちゃくちゃ大変というか厳しくて・・(笑)進学校ですし「何でここで映画なんか撮るんだ」みたいに思われてて・・。(笑)。でも、どうしてもラストシーンはここじゃないといけな気がして、本気で学校を説得して、ようやく撮影のお許しをもらえました。

凄いい情熱ですね

今思えば良い思い出ですね。30分の限られた撮影で先生たちも横で見えていたんです。すると、最初は大反対だった先生たちが撮影を終えると「めちゃくちゃ良かった」と言ってくれたんですね。そこで「知らないものを世に出して、人の心を動かす」という事がとても大切な事だと気づかされて、作品の本質を改めて考えるきっかけになりましたね。



※映画「ぼくたちはここにいる」旧山川南部小学校にて

**映画によって人の感情や心が変わることに
面白みを感じたわけですね**

映画きっかけで知らなかった事を知り、人の感情に変化をもたらし、人と人の繋がりが芽生え、周りが変化していくことが、とても大事なことだと気付かされました。

**今まで短編がメインだったんですけど2018年
に長編に挑戦されますよね**

ある時に予告編大賞(未完成映画予告編大賞)という大会があって、それに優勝したら3,000万円の制作費で映画を作れる権利がもらえる内容だったんですね。そこで最終ノミネートまでいきまして・・。ただ、惜しくも優勝を逃しまして、本当に悔しくて凹みました。今まで必死になって作ったのに、何も残らないあと。その時にウェブドラマの作品も作っていたんですけど、再生回数も全然伸びず・・。

また、当時付き合っていた彼女とも別れ・・。本当、人生のどん底を感じていましたね。やってもやっても、何も残らないなあって。

**落ち込んでいたのに、なぜ長編にチャレンジ
しようと思ったのですか**

落ち込んでいた時に、自分は結局何をしたいのかと振り返りました。やはり、良い映画を作りあげて、色んな人に見てもらうことが何よりも大事であり、映画を作ることにしか自分自身残っていないと思い返しました。そこからは、このどん底の感情さえも、良い映画を作るための材料だと自分自身を奮い立たせて、やりたかった長編映画にチャレンジして行きました。どうせするのなら、自分がやりたかったことをやるうということで、昔から題材にしたかったSNSや老人を軸に置いたテーマで作品作りにチャレンジしていったという経緯ですね。

完成した長編作品の評価はいかがでしたか
アジアフォーカス福岡国際映画祭招待作品に
なったりと、多方面から評価を頂きました。
道徳的にも考えさせられる題材なので教育にも
良いと言って頂きまして、本当にチャレンジ
して良かったなと思いました。

また新たな作品を制作中ということですが
次回作の「こどもばんぱく」は実話を基にした
作品です。中井けんと君という中学生が作った
事業が、とても素晴らしいので、何とか映像に
残したいという想いから、映画作りをスタート
しました。ぜひ、色々な人に観て欲しいですね。

大変楽しみな作品ですね。公開の際は是非拝見
させて頂きたいです。(2021年5月公開予定)
本当に考えさせられる内容だと思いますよ。
これから先、都会と田舎は格差がどんどん
広がっていくと思います。「こどもばんぱく※」
のように新しい価値観を見つけて自由な発想で
田舎でもできることを、どんどんチャレンジ
していかないといけないような気がします。
今の子ども達って抑制されてる気がするんです。
都会にいけばいくほど情報も豊富で人も多い。
田舎になればなる程、小さいコミュニティで
情報が完結してしまうことが多く、子ども達に
うまく伝わっていないような気がします。
子ども達の情報収集能力には限りがあります。
もっと子ども達の可能性を広げるためには、
場所を問わず、色々なチャレンジができるよう
に、そこに生きる大人がちゃんと機会を与えて
あげて、可能性を引き出していかなければいけ
ませんね。

本当ですね。子どもの教育においても
そこに生きる大人達が場所は関係なく積極的に
情報を発信していくことが大事ですね
大人がきちんと発信していかないと、田舎に
住む子ども達はチャンスを見失ってしまいます。

映画を撮り続けていくうちに、小田さん自身の
考え方は変わっていききましたか

はい。現在撮影している「こどもばんぱく」は、
引きこもりだった中井君が、ここまで人を魅了
する事業を大々的に成功していく姿を目の当た
りにして、学校や勉強で学ぶことも大事だけど、
好きなことを続けて世に発信していくことも
本当に大事なんだと感じさせられました。

今後の夢はありますか

現在、NetflixやHuLuなどの動画サイトで
気軽に映画を楽しめることが定着しつつある
んですけど、やっぱり映画って映画館に行って
観るのが一番良いんです。何人かで映画館
に行って、同じ時間を共有する。それこそ
が映画の楽しみだと思うんですね。なので、
自分もこの福岡というフィールドで映画を作る
サイクルをしっかりと確立して、コンスタント
に映画を作り続けて、多くの人達に映画館で
楽しんでもらえたら良いなという夢があり
ますね。

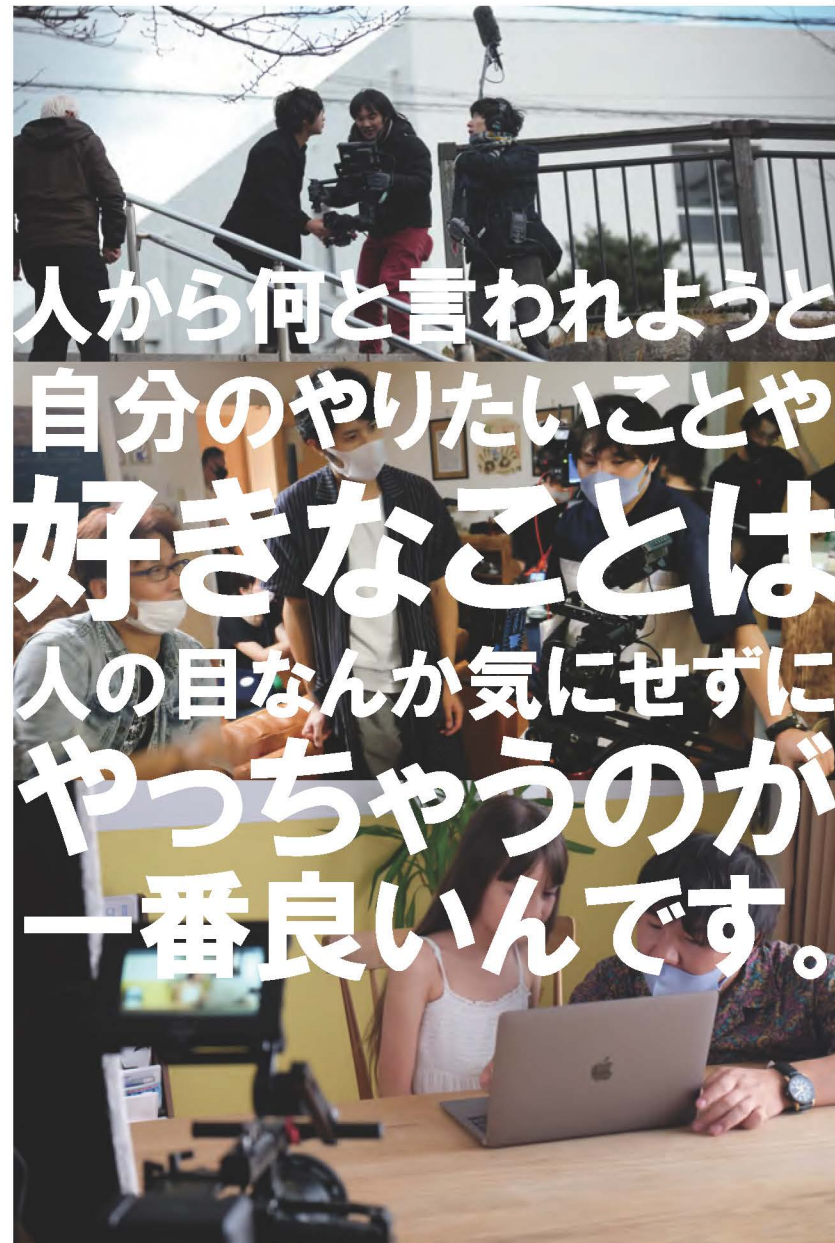
子供たちにメッセージをお願いします

「人と違うことをする」ということは、時に馬鹿
にされたり、イジメの対象になったりすること
があります。でも、人生において「人と違うこと
をする」ということは、とても大切な事で、実は
それこそが重要だったりするんです。人から
何と言われようと、自分のやりたいことや好き
なことは、人の目なんか気にせず、やっちゃ
うのが一番良いんです。

小田さんにとって映画監督とは

映画って人それぞれで見方や風景が違って見える
んです。映画監督とは、多くの人に対して、特別
な世界に浸れる空間を一時的に提供できる人だ
と思います。

※「こどもばんぱく」とは中井けんと君という中学生
が子どもだけで作るワークショップを開催したことで
始まったイベント。第2回には総勢3500人を動員した。



ERIKA

BATONZONE FEATURE4 JAZZ SINGER



エリカ / まつおえりか (ジャズシンガー)

1977年1月29日生まれ みやま市瀬高町出身

ニューヨーク市立大学シティカレッジ ジャズ・プロフェッショナル科卒

高校時代、ヤマハ Teen's Music Festival 福岡大会に出演し親友とのオリジナル曲を演奏して優勝。九州大会に出場

1997年ニューヨークへ初渡米

2000年ニューヨーク市立大学シティカレッジ ジャズ・プロフェッショナル科入学

2003年ニューヨーク市立大学シティカレッジ ジャズ・プロフェッショナル科卒業

優秀な学生に贈られる Music Award を受賞

2007年3月 浅草ジャズコンテスト ジャズボーカル部門でグランプリを受賞 爽健美茶のCMソングに抜擢

NYの老舗クラブ「Blue Note New York」や「Jazz At Kitano」等で10年以上毎年演奏

現在、みやま市のふるさと観光大使を務める。

子供の頃はどんなお子さんでしたか

小学校の頃は、外でよく遊ぶ活発な子供だった記憶があります。近所の友達と秘密基地を作って遊んだり、色々な遊びを考えて毎日遊んでいました。あと他にはバレーボールをやっていたり、クラシックピアノと書道を習っていました。特に5歳から習い始めたクラシックピアノは、今現在も自分の音楽活動において、大事な基盤として本当に役立っています。

中学校の頃は怎么样了か

モノマネが得意だったので、よく人を笑わせていましたね(笑)あと部活は卓球部に入っていました。当時の卓球部は、不良グループと真面目グループがミックスしている状態でしたね。最初はかなりの人数が入部しましたが、半年後には半数以下になっていました。私も辞める予定でしたが、顧問の熱血先生に電話で何回も止められて、結局やり続けました(笑)

高校時代はいかがでしたか

高校生活の最初は、勉強ばかりで本当に楽しくありませんでした。『自分が何をしたいのか、何の為に生きているのか?』と、毎日考えていた記憶があります。その頃が人生に葛藤していたと思います。その後、瀬高町で開催されたカラオケ大会があって、そこで準優勝したんですね。そこから「人前で歌って楽しい」と感じるようになり、バンドをやりたいと漠然と思い始めました。

本格的に音楽活動をし始めたのはいつからですか

本格的に活動し始めたのは高校2年の時でした。同じクラスで、席が前後だった松尾瑠衣ちゃんと出会い、お互い音楽の話で意気投合して、一緒にバンドを組み活動し始めました。彼女は、幼少の頃からクラシックピアノを習っていて、絶対音感があり、曲を聞いたらどんな曲でもすぐ演奏できるような素晴らしい音楽家でした。彼女のお父さんがバンドマンで、自宅に楽器や、音楽機材が沢山あったので、そこで毎日2人で

曲を作っていました。彼女はギターを担当して、のちにベース、ドラム、キーボードのメンバーが加わり、「Tear Drops」という5人組のガールズバンドとして活動し始めました。

人前で演奏されたりしましたか

バンド結成後、グリーンピア八女の野外音楽祭に出演し、オリジナル曲や、日本人ガールズバンド「少年ナイフ」の曲をコピーし、演奏しました。その時に瑠衣ちゃんがピアノで演奏した「ミステリー」というジャズスタンダードの曲にあわせて、自分が書いた詩を読んだりもしました。初めてのステージで演奏だったので、凄く緊張して、興奮したのを今でも覚えています。バンドを結成してからは、365日音楽漬けの毎日でしたね。

当時はバンドブームだったと思いますが、周りの反応はいかがでしたか

良かったと思います。久留米を中心に他のバンドと対バンしたり、精力的に活動していました。当時ガールズバンドが珍しかったという事もあり、活動を始めて間もなく、「月間くめ」の人気バンドランキング1位になったり、上位に入るようになりました。

山門高校は進学校ですが、バンド活動を続けるには厳しい環境では無かったですか

そうですね。高校2年の3月に、レコード会社からのオファーを頂き、レコーディングなどを経験させて頂きました。しかし、その後受験シーズンに入り、バンド仲間も受験勉強に必死になっていき、環境が急に変ってしまいました。私は大学に進学せず、東京の音楽専門学校で本格的に学びたいと思っていたのですが、両親が「音楽で生活していくのは難しい!だから絶対大学に行くべきだ」と反対していたので、意見が衝突し、毎日喧嘩していました。高校はアルバイトが禁止でしたが、入学を希望していた東京の音楽専門学校の体験入学に行くために、こっそり働き始めてお金を貯めました。そして、福岡市内から東京行きの夜行高速バスに乗り、自分一人で、日帰りで東京へ行きました。

自らお金を貯めて、自分の希望する場所を確かめに行くなんて凄い行動力ですね

高校卒業してから、更に音楽を学びたいと真剣に考えていたので、まずは自分の目で確かめたいと思っていました。ですが実際に行ってみて、自分の思い描いていた印象とは違っていて、「東京へ今行くべきなのか？」と悩みました。そして自分のやりたい音楽を続けていくにあたり、いつか英語の壁にぶつかるだろうという思いと、両親の意向もあり、推薦入学で長崎外国語短大へ進学しました。

短大時代の生活はどうでしたか

初めて親元を離れての女子寮での生活はとても新鮮でした。一緒に寮で暮らした仲間は今でも家族のような存在です。短大でのクラスメートも色々な県から来ていて、方言も様々でとてもユニークな面白い子ばかりでした。長崎でクラブのDJの人と知り合ったことがきっかけで、クラブミュージックと出会い、クラブジャズに夢中になりました。その後1996年に、短大のプログラムを通じてアメリカのアイオワ州にある大学に3週間短期留学しました。

短大在籍中に運命的な出会いがあったんですね

そうですね。当時ニューヨークからツアーで日本に戻られていたジャズピアニストの平戸祐介さんとの出会いが人生を180度変えました。きっかけは、寮で同居していた友達が平戸さんのファンで、彼のライブを見に行った時に平戸さんと話して、その後平戸さんを紹介してもらいました。出会ってすぐ音楽の話で意気投合し、ニューヨークを拠点に活動されている平戸さんのリアルな話に興奮したのを覚えています。その時に、短大を卒業したら、東京の音楽専門学校に行くことを伝えると、「今ボーカル探しているから、ニューヨークでバンド組もうよ！」と誘って頂き、急遽、ニューヨーク行きを決めることになりました。

まさに急展開ですね

そうなんです！平戸さんに出会った日が、



専門学校へ入学金を支払う1週間前だったんですね。その日に平戸さんと具体的にいつ頃ニューヨークに行くべきか話したり、アパートや、語学学校も見つけて下さる事になりました。後は私が両親を説得する所まで話が進んでしまって（笑）なので、そこらが修羅場でした。

ご両親とですか（笑）

そうです。短大を卒業したら東京の音楽の専門学校に行かせてもらう事を説得していた矢先でしたので、どういう風にニューヨーク行きを説得できるか考えていましたが、正直に自分の思いを両親に伝えました。「凄くない出会いがあり、ニューヨークでバンドを組める事になりました。東京行きは辞めて、ニューヨークに行かせてください」

大喧嘩になったんじゃないですか

あまりに急な変更にも両親は困惑していました。「なんば言いよっとか！！こないだまでロック



ちよっとに、今度はジャズか！！しかも東京からニューヨーク！！もう知らんぞ」と初め言われましたが、最終的に私の想いを理解してくれて、1997年にニューヨークに送り出してくれました。

実際、初めてのニューヨークはいかがでしたか

平戸さんと一緒に作曲したり、当時平戸さんが通っていた、私立大学のジャズミュージシャンとレコーディングしたり、充実した日々でした。しかし生活面では、英語が話せないで、街で詐欺に遭遇してしまい、お金を騙し取られて、その後、その詐欺師に街で遭遇したので、追いかけて回して捕まえたり・・・（笑）毎日何かしらドラマがありました（笑）

その後は、一時帰国されたんですか

当時はまだ歌に対して真剣さが足りなく、また資金も尽きたので、一旦日本に帰国しました。意気込んでニューヨークに行きましたが、何も

結果を残すことが出来なかったことで、周りから厳しい目を向けられました。帰国後は実家に戻らず、福岡市内に住んでいた瑠衣ちゃんの6畳一間のマンションに転がり込んで一緒に住ませてもらいました。でも、その6か月後、彼女が突然交通事故で亡くなってしまったんです。高校での出会いで私を音楽の道へ導いてくれ、そしてずっと時間を共に過ごしたかけがえない親友がその事故で一瞬にしていなくなってしまい、本当に事実を受け入れる事ができませんでした。生まれてはじめて、逃れられない「死」という現実へ直面しました。

本当に辛い思いをされたのですね

何故才能のあった瑠衣ちゃんが命を失わなければならなかったのか？人生が一気に真っ暗になり、途方に暮れました。自分だけが生きているのが罪悪感にもなり、辛くて死にたいと思う日もありました。涙が止まらず、喪失感と深い悲しみの日々が続き、人生で一番辛かった時期でした。そして、瑠衣ちゃんとの思い出が多い福岡を離れなくなり、大阪に移住する事を決めました。

大阪時代は、お仕事ばかりされていたと聞いています

そうですね。忙しく過ごす事で、少しでも気を紛らわそうとしていたかもしれません。瑠衣ちゃんの事や、音楽の事を考えていると、次第にニューヨークが、どこか懐かしく感じるようになっていました。そして大阪に住み始めて2年程たった頃、もう一度ニューヨークでジャズを勉強しようと決意しました。ニューヨーク市にある大学の情報収集しながら、TOEFLを勉強し始めました。当時はインターネットが今ほど普及していなくて、大学を調べるのに英語が伝わらず、本当に苦労しました。資料を調べては、テレフォンカードを2万円ほど使って、国際電話をのりの繰り返して、何度も電話で確認し続けながら、行きたい大学にジャズ科があることがわかりました。

やはり音楽を本場のアメリカでやりたいという想いが強かったんでしょうか

そうですね、そういう想いが強かったです。溜衣ちゃんが亡くなってからは、音楽から完全に遠ざかった生活が続いていましたが、やはり自分には本当に音楽しかないと気づきました。一刻も早くジャズを勉強するために、ニューヨークに渡りたいと思い、色々資料を調べて悩んだ末に、ニューヨーク市立大学シティカレッジに入学を決めました。何より音楽の楽しみや生きる喜びを教えてくださいました溜衣ちゃんが、また、私の背中を押してくれたのだと思います。

そしてニューヨーク市立大学シティカレッジのジャズ・プロフェッショナル科へ入学されましたが、大学生活はどうでしたか

ニューヨークに着いて次の日に大学に行き、無事に入学できたのですが、ジャズのプロフェッショナル科にはオーディションに合格しないと入れないと聞かされました。しかも、今学期のオーディションは既に終わっていて、次のオーディションが半年後の秋と言われました(笑)でもその時、私はまだ歌えるジャズのレパートリーが少なく、英語や理論も勉強していませんでしたので、その半年間でしっかりと準備して、秋のオーディションに備えるようにしました。大学での講義以外に、ボイストレーニングやピアノの先生に師事し、レッスンを受けながらジャズのレパートリーを増やし、夜はジャズミュージシャンが集まってセッションをしている場所に通い、生演奏で歌う経験を積んでいきました。そして同年秋に無事にジャズ・プロフェッショナル科に合格し、秋学期からようやく参加する事ができました。ジャズ・プロフェッショナル科のクラスは、経験者ばかりでレベルがとても高く、授業についていくのが大変でした。ただ、イヤートレーニングの授業は、幼少の頃から習っていたクラシックピアノで身に付いていた絶対音感があったので良い成績を残す事ができました。あと、日本の短大で取得した単位を移行してきたので、最短で卒業する事が出来ました。幼少からピアノを習わせてくれ、

そして日本で短大に行かせてくれた両親に本当に感謝しました。

素人考えなのですが、音楽をするのに大学まで行く必要性はあったのですか

これに関しては色々な意見や考え方があると思います。私がシティカレッジに行きたくて学ばれた一番の理由は、ロン・カーター、シーラ・ジョーダンといった世界的に活躍しているジャズ・レジェンドに直接師事出来るという事でした。特にシーラ・ジョーダンからは本当に多くの事を学びました。音楽家としての技術的なものはもちろんの事、彼女の音楽に対する姿勢やスピリッツ、人生と生き様を間近で感じ、音楽家として、そして人として、計り知れない影響を受けました。彼女からの教えは、今現在の自分の核になっています。

卒業後はどうされましたか

在学中は守られていた環境でしたが、卒業してから本当の意味でのニューヨークでのサバイバル生活が始まりました。まず、卒業後すぐにニューヨークで活躍するミュージシャンたちと、自分のファースト・アルバムを制作しました。アルバイトをしながら生計を立て、マンハッタン内にあるジャズクラブやライブハウスにCD音源を持って行き、演奏できる場所を探していました。2005年春からは、日本ツアーを行うようになりました。しかし、周囲からは未だ成果の無い私に対して「現実をみた方がいい」「いつまで夢を追いつけているのか」と言われ、まだ目に見える結果を出せていない自分に対する厳しい言葉に悔しさを覚えました。周りの人たちが安定した仕事について生活を送っているなかで、思うような結果も出せず、行き詰まった日々が続いていましたが、それでも何とか頑張っていこうと思っていました。

苦しい日々を過ごされている中で転機が訪れますね

少し不思議な体験だったんですけど、ニューヨークの日系書店で音楽雑誌に目を通していた



時に、浅草ジャズコンテストの応募記事を見つけてきました。応募に必要な金額が3,000円で、たまたま同額の日本円が日本から帰ったときのコートのポケットに入っていました。これも何かの縁だと思ってCDを送り応募したところ、予選を突破して、最終審査の10名に選ばれました。しかし、日本に数日間戻るときの費用が20万円以上かかり、金銭的にも厳しかったので、帰るかどうか迷っていました。そんな時、知人が「こんな機会はなかなかないかもしれないし、絶対出るべきだ」と背中を押してくれたので、出場する事を決めました。家賃をヴォーカルレッスンや渡航費にあて、コンテストにむけて毎日トレーニングに励みました。もしコンテストで優勝できなかったら家賃が払えず、借金を作る事になる。ある意味自分を追い込み、実力を試す賭けのようなものだったかもしれません。

ギャンブラーですね(笑)

そうですね(笑)人生は挑戦の連続のように思います。何かにチャレンジすることで、今まで自分が知らなかった部分や、新たな事を

学んだり経験できたり、ミラクルが起きる事があつたりするように思えます。

その後コンテストの結果はどうでしたか

グランプリを取る事ができました。歌うときに、ニューヨークでジャズボーカルの師事していたキャロル・フレデッテから言われた「歌はペインティングと同じ。ラインのひとつひとつを明確に感情を込めて歌えば必ず聴き手に伝わる。上手く歌おうとするのではなく、一番大切なのは音楽そのもの」という言葉を胸に、心を込めて歌いました。歌い終わった後に頂いた歓声を今でも覚えています。グランプリが決まったとき、緊張から一気に解放され、涙が溢れました。

その大勝負のおかげで、欲しかったタイトル(結果)も得たわけですね

得たものは計り知れ無かったです。グランプリ獲得後、「爽健美茶」のCMで歌うことも決まり、2007年は本当に自分の中で転機の年になりました。

タイトル獲得後も、別のお仕事をしながら音楽活動されていましたか

はい。他の仕事をしながら、引き続きニューヨークのジャズクラブで演奏、新しいアルバムの制作、日本ツアーを行ってきました。日本ツアーを始めた当初は本当に大変でした。きつかった時期を乗り越え、沢山支援してくださいる方も増え、今では春と秋に全国ツアーを2回、毎年約80カ所で演奏できるようになりました。それに伴い、ラジオやTVにも沢山出演させて頂けるようになりました。そして今現在は、音楽だけでやっていけるようになりました。

ライブ会場のブッキングや、一緒に演奏してくれるミュージシャンの手配などはどうされていますか

会場、ミュージシャンの手配は基本的に自分で行っています。あとは主催して下さる方々が手配して下さいる場合もあります。音楽的に合うミュージシャンを探していくことはとても大事だと思っています。ニューヨークでは一緒に演奏する仲間がいるのですが、日本でツアーを始めた頃は、誰も知り合いがいなくて、ニューヨークに住んでいる日本人ミュージシャンに紹介してもらったりして、探していました。海外から日本のジャズクラブをブッキングする時は、最初にお店へ電話してご挨拶していました。しかし、他のミュージシャンからの紹介ではなく、直接電話でのブッキングだと冷たい対応をされる時もあり、とても大変でした。でもライブで演奏した後、クラブオーナーさん達に気に入って頂き、凄く良くして頂けるようになりました。

エリカさんにとっての続けていく上での達成感とは何ですか

やっぱり、いい音楽をライブで演奏できた時や、ツアーを無事に終える事ができた時には達成感を感じます。ミュージシャンとオーディエンスが一体となった時に感じる躍動感、そして生きてよかったという喜びや感動は唯一無二のもので、音楽を続けていくエネルギーや原動力になります。また、応援して頂いている方々から感動したとメッセージを頂いたときに、音楽を続けてきてよかったと思います。でもそれと同時に、まだまだボーカリストとして成長過程なので、改善する点も多く、満足する事はありません。もっと上手になりたい、自分をもっと音楽で自由に表現できるようになりたいと常に思います。落ち込んだり、思い悩んだこと、すべての事は今の自分になるための、大切な経験と思えるようになりました。

エリカさんの今後の目標があれば教えてください

今の目標は、クラウドファンディングで沢山の方々にサポートして頂いた、製作中のニューヨーク20周年アルバム「Here And Now ~ 今ここに~」を完成させて、今年の春にリリースすることです。今も未だコロナ渦中で、アメリカ国内や日本でツアーをすることは難しいですが、また演奏できる日が来るのが待ち遠しいです。あと、ヨーロッパやまだ行った事のない国にも演奏しに行きたいです。そしてこれからも引き続き、ニューヨークでジャズレジェンド達から学んだ事を次の世代に伝えて行くことや、育成にも力を入れて行きたいと思っています。歌や音楽を通じてまた沢山の人達と出会い、感じる想いを発信していきたいです。

子どもたちにメッセージをお願いします

思うように結果が出ずに報われない時や、苦しい思いをする事もあると思います。でもそれは決して「失敗」では無く、その苦しみや悲しみをどう乗り越えていくかで、それが自分にとっての「経験」となっていきます。沢山の経験の中で、素晴らしい出会いや出来事があると思います。その一つ一つが自分の人生を作っていきます。18歳の頃からずっとある座右の銘は、「Where there's a will, there's a way」意志あるところに道あり（どんなに困難な道でもそれをやり遂げる意志さえあれば、必ず道は開ける）という言葉です。とにかくやり続ける事。自分を信じて、諦めないでやり続ければ、必ずその先に光が見えてきます。

エリカさんにとって、ジャズシンガーとは

ジャズシンガーとは、人生をジャズという音楽で表現するストーリーテラー、そして色々な想いを伝えるメッセンジャーだと思っています。師匠のシーラ・ジョーダンが良く言っていました。「音楽を人生をかけて追求しなさい。音楽は命をも救ってくれるときがある。ジャズボーカリストとして、Don't Be a Diva, Be a Messenger！」（ディーバにはなるな、メッセンジャーになれ！）私自身も大切な親友が他界したとき、音楽に助けられました。今は亡き親友が与えてくれた、音楽を通した多くのかけがえのない出会い、そしてそれぞれの想いが今の人生を形成しています。ジャズ、音楽への追求、人生において出会いと別れはこれからも続いていきます。



Where there's a will, there's a way

- 意志あるところに道あり -



アナウンサー

長麻未



ちょう あさみ (アナウンサー)

1982年5月11日 生まれ みやま市高田町出身

西南学院大学卒

アマチュア無線技士の資格を保有している両親の影響で、9歳のときに第四級アマチュア無線技士の資格を取得
西南学院大学文学部児童教育学科卒業後にKBCラジオのラジオカー「ひまわり号」のリポーターを担当
教職へ一時転職するも、再度RKBラジオのラジオカー「スナッピー」のリポーターとしてマスコミに復帰
NHK千葉放送局で2年間、NHK山口放送局で3年間、NHK福岡放送局で1年間契約キャスターとして活動後、
文化放送へ入社しアナウンサーとなる
現在、フリーアナウンサーとしてラジオ日本などの番組に出演

幼少期はどんなお子さんでしたか

週に1回はケガをするくらい元気な子でした。幼稚園では、男の子と一緒に戦隊ものごっこをしたり、高いところからジャンプしたりとアクティブな遊び方をしていましたね。一方で、お遊戯会で「おやゆびひめ」の主演に先生から抜擢されるも、「自分は姫というキャラクターではない」と遠慮して断りにいくような、当時から自分を客観的に見る節がある子どもでした。

小学生時代はいかがでしたか

小学生の時は「麻未も免許を取ってみたい？電波で色んな人と繋がることのできるんだ」と父に言われたのと、父が実際に友人たちと楽しそうに無線で会話する姿に影響を受けてアマチュア無線の資格を取りました。学校生活では、人生において、非常に影響を受けた先生と出会いました。3年生～5年生の間、担任の先生だった中山先生という方です。その先生は実家がお寺で、礼儀礼節をしっかりと重んじていて、私たちに勉強以外の大切な事を多く教えてくれました。「いただきます」の意味とか、他人を慮ることとか。一方で、先生自身が若い頃、ちょっとヤンチャだった話も包み隠さず話してくれる面白い先生でした。今では問題になるかもしれませんが、当時、学習指導要領の範囲を超えて勉強を教えてくれたりしたんです。なので、今日はどんなことをするんだろう？という意味で予想ができず、学校生活が楽しくて仕方なかったですね。

中学生時代はいかがでしたか

中学生の時は、英語部に所属していました。当時、私が通っていた高田中学校は体育祭がある年と文化祭がある年が分かれていたんです。私の時は3年生のタイミングで文化祭が来る年だったので、文化祭で英語劇に出るために入部しました。実際3年生の時にヒロインに抜擢され、お陰様で、文化祭で輝きましたね。英語劇なので、同級生からは「何を話しているか分からなかった(笑)」だけど、熱意と雰囲気面白さが伝わってきたよって褒めてもらえ

ました。これが人に何かを伝えることを好きになった瞬間の1つですね。

ヒロインをやられるぐらいですからモテたんじゃないですか(笑)

文化祭の後、1歳下の子に告白されてしばらく付き合っていました(笑)1歳下のグループでは結構モテるタイプの子だったみたいで、彼と2人で過ごしていると、彼のファンの女の子が様子を見に来ていましたね(笑)今思えば、あの時にヒロイン役を演じたことで人前に出ることが楽しいと思うようになったのかもかもしれません。

小学校や中学校の時に夢はありましたか

小学校の時に中山先生から、「長は先頭に立っていきより、全体を見渡してサポートしていく方が合っている」と言われて、将来的には誰かをサポートするような人になりたいと思っていました。また、中山先生が本当に良い先生だったので、この頃から学校の先生にも憧れを抱いていましたね。

高校生時代(伝習館)はいかがでしたか

高校1年生の時は演劇部に所属していました。プロの劇団の方々と一緒に舞台上に立つ機会があって、人前に出たり、表現したりすることがますます楽しいと思うようになりましたね。そのほかの思い出は体力がついたことでしょうか？片道13kmある道のりを自転車で通っていたおかげで、運動部でもないのに腹筋が割れてマラソンとかも年々速くなっていった記憶があります(笑)

その後は西南学院大学に入学されていますが志望した動機はありましたか

私は昔から感受性が豊かなせいか、人や子どもの心理に興味があったんです。自分自身も、子どものころから色々と考えたり、悩んだりすることがあったので、そんな子どもを助けるような心理カウンセラーになりたいと思っていました。なので心理学も勉強が出来て小学校の頃の憧れの職業の1つ、小学校の教員免許も

取れる児童教育学科へ進学することにしました。

やはり学校の先生もどこか目指していたのですか
学校の先生にも憧れはありました。でも中山先生のような素晴らしい先生にはなれないと思っていたので、「学校の先生になりたい！」と表立って口に出すことはありませんでした。

大学時代のお話を聞かせてもらえますか

大学時代は真面目な話が無いんですが(笑)

いいですね、そういうのを待ってました(笑)

大学1年生の時に付き合いした彼が、「スカートは他の男性の気を惹かせるモノだ」と言っていて、スカートを履くことを禁止する人だったんで、ずっとデニムを履いていたんですよ。それがある日、その彼が、同じ学科の隣のクラスの女の子と浮気して、結局別れちゃったんです。別れたということは、つまり、スカート解禁です！当時、ロングブーツにミニスカートを履くのが流行っていたので、失恋の傷が癒えた後ですが、ミニスカートを履き始めたら、人生最高のモテ期が到来しまして(笑)

なるほど(笑)スカート解禁をきっかけに沢山の恋をしてきたってことですか

いえいえ、その彼以外で同じ学校の人と付き合うことはありませんでしたよ(笑)それからは、あるバンドマンの方と大恋愛に突入して、10年ぐらいお付き合いすることになるんですけどね。もう、この話はここまでしておきましょう(笑)

わかりました(笑)さて、在学中に現在の職業になるきっかけはありましたか

心理カウンセラーをめざして大学へ入学したので、在学中に心理学のゼミの先生に心理カウンセラーになりたいと相談したんです。そしたら、その先生にきつぱりと「長さんは心理カウンセラーに向いていない」と言われました。

どうしてですか

心理カウンセラーは、色んな人の悩みを沢山

聞いて、いい方向に導いてあげる仕事なんです。色んな人の悩みを聞くので、気持ちの切り替えがうまくできないといけないんですね。私の性格は、人の悩みを自分の悩みのように深く受け止めて考え込むタイプなので、仕事として向いていないという事でした。「その代わりに、長さんは身近な人のカウンセラーとして生きていきましょう。」と言われて、その方が私に合っているなと納得しました。





よく見抜いている先生ですね。では、それから夢を切り替えたのですか

そうですね。さすが心理学の先生ですね。小さいころから誰かが頑張っている姿をサポートしていくことが得意だったし、じゃあどうしようかなと考えた時、子どもの頃から頑張っている人を支えるのが好きで、一方で人前に出ることも好きな方だったので、リポーターの仕事はどうかと思いました。テレビでリポーターが現場からいろんな話題を届けていますよね？小学生の頃、ちょっとその姿に憧れていて・・・自分も頑張っている人のことを多くの人に伝えることでサポートしたいと思ったんです。でも、当時アナウンサーやリポーターって顔が可愛いとかなれないかと思っていたので、口が裂けてもアナウンサーになりたいなんて人には言えずに、大学4年生を迎えてしまいました。卒業目前の12月になった時に、大学の就職課の人から呼び出されて、就職活動の痕跡

が無いが、どうなっているんだと言われ、その時に初めてアナウンサーやリポーターをやりたいと大学の就職課の人に言いましたね。

お話を聞いていると何となく流れに身をまかせながら夢にたどり着いたという感じですね

そうかもしれませんね。学校の先生や心理カウンセラーなど色々な仕事に興味を持ったんですけど、何となく「人を支えたい」というところから「頑張っている人を取材したい」となって、このようになっていきましたね。

それからKBCラジオの専属のリポーターとして就職されましたが最初はいかがでしたか

就職したのに、本質ではない部分、人間関係とかで悩み過ぎて1年で辞めてしまいました。今、思い返すと、当時は子どもだったな、もう少し頑張れたよね、とは思いますがね。

それから、もうひとつの夢でもあった学校の先生をされるのですよね

そうですね。もうひとつのやりたかった職業である学校の先生をやり始めました。小学校の先生は「天職かも」と思えるくらい楽しかったですね。子どもたちや保護者の皆さんと仲良くできて、毎日が充実していました。そんな中、当時付き合っていた彼が、「学校の先生もいいけど、リポーターをやっている時の方が輝いていたよね」と言ってくれて。自分では意識してなかったんですけど、その一言で途中で諦めてしまった夢にもう一度挑戦してみようと思えました。

そこから、ライバル局のRKBラジオに就職するわけですが、よく採用されましたね(笑)

RKBラジオ1社しか応募しなかったのですが、私も採用してもらえるなんて思っていませんでした。採用時の面接では、やはりKBCを1年で辞めた部分を指摘されましたが、RKBラジオ「スナッピー」の良いところを私なりに分析して、それを話したら、面接官が深く聞いて・・・結果、合格。そこでスナッピーのリポーターとして3年間働かせて頂きました。

2度目のリポーターとしてのお仕事はいかがでしたか

やっぱり忙しい日々でしたけど、最初の経験も活かせたので本当に楽しく仕事していました。

リポーターとしての仕事が好きと感じていたのですか

放送用の機材を準備するのも機械好きの私は好きですし、小さいころから父の影響でアマチュア無線をやっていたから、電波を自分で飛ばして声を誰かに伝えることも楽しかったです。取材をして、現場で起こっている事や頑張っている人の姿を伝えるだけでなく、リスナーさんから「今日のレポート良かったね」とか「いつも聴いているよ」とか声をかけられると、「ちゃんと伝わっているんだ」とますます嬉しくなりました。また、リポーターとして色々な現場に行くと多くの人と出会えるので、毎日違って、刺激的で充実していましたね。最初の就職先では、余裕が無くて本来の「楽しむ」ということを見失っていたのかもかもしれません。

なるほど、1度スバツと辞めたことで良い方向にいったのですか

そうですね。私の場合は、苦しい中でダラダラやらずに「辛い、もう無理だ」と思ったから、スバツと辞めたのが逆に良かったのかもかもしれませんね。



実際、リポーターやアナウンサーって給与面は どうなのですか

正社員か契約社員かにもよると思いますが、放送局の規模や放送しているエリアの範囲によっても様々です。一番お給料がよかったのは、九州沖縄エリアの拠点局であるNHK福岡時代でした。1年間、ありがとうございました！と言いたいです（笑）

NHKでのお仕事が6年間と、一番長かったよう ですね

そうですね。NHKでは千葉放送局で2年間、山口放送局で3年間、そして地元福岡放送局で1年間、計6年間契約キャスターとして活動しました。今だから言える話ですが、山口放送局の2年目が終わる頃に、同じ中国地方管内の広島放送局からうちの局に来ないかと誘われたんですけど、お断りしたこともあったんです。

地方より大きい拠点局からのお誘いですよね。 給与も良いのに、なぜ断ったのですか。

私は多分、一緒に働く人や環境の方を重視するタイプなんです。来年度も今いる仲間と一緒に良い仕事が出来たいと思っている時に、声をかけてもらったので……。新しい仕事も魅力的でしたが、山口に残ることを決意しました。おかげでいい仕事が出来ましたよ。

九州から離れて東京の文化放送の在籍をされて いますが東京はいかがでしたか

文化放送では、私の喋りの人生で初めて「アナウンサー」として採用されました。NHKとは違って民放のアナウンサーなので、どちらかというと、タレント性というか前に出ることを求められる場面も多かったのですが、私はやはり自分が目立つことが、それほど好きではないので、アシスタントとしてサポート役に専念しました。東京では、地方にいる時よりも、スポーツ選手や芸能人など、様々なジャンルの方と多く出会うことができました。文化放送を辞めた今でも繋がっている方もいます。アナウンサーって一生できる仕事ではないと、

前々から思っていたので、今後他の仕事をしていくためにも人脈を広げる必要性も感じていました。

戦略的ですね

今は副業（複業）がOKで、パラレルキャリアの時代なので、フリーアナウンサーでありながら一般企業で働くというのありなんじゃないかなと思っていました。実際、去年の12月から一般企業で広報として働いています。これまでと同じ「伝える」仕事であり、会社を「支える」仕事です。きっかけは、文化放送時代に取材したある企業の取り組みが、非常に素晴らしくて感銘を受けたので、その企業で働いて役に立ちたいと思ったからなんです。さっそく夢が叶いましたよ。

凄いですね。本当に流れに身を任せながらも 自分がやりたいことを実現されていますね

いえいえ、長い道のりがあってからの今ですから。私は今でこそ「アナウンサー」と言っていますが、実は経歴から言うと、リポーターからキャスター、そして、35歳の時に初めて文化放送でアナウンサーとしての仕事をして、ようやく「アナウンサー」の肩書がついたんです。だから、やりたいことが叶ったのは正確に言えば、35歳になってからですね。しかも、その時に憧れだった村上信五（関ジャニ∞）さんと一緒に番組ができて、ダブルで夢を叶えられました（笑）

今を生きる子どもたちへメッセージをお願い します

自分では気づけない、人から言われる言葉で初めて気づくことがあります。そういった人から言われる「言葉」をしっかりと聞いて、自分の性格に合った自分の好きな方向へ進むと良いと思います。

長さんにとって「アナウンサー」とは前に出なくてはいけない時もあるけど、それは自分のためじゃなくて人を輝かせるため。アナウンサーは、周りの人を輝かせるためのお手伝いをする仕事です。



人から言われる「言葉」をしっかりと聞いて、自分の性格に合った自分の好きな方向へ進むと良いと思います。

芸人 坂田光

さかた ひかる (芸人)

よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属

コンビ名：サンシャイン

1987年8月4日生まれ みやま市瀬高町出身

福岡大学卒

3人兄弟の次男で生まれ、特技の剣道では中学校時代に県大会でベスト8の成績を残すほどの実力

その功績から福岡県内でも有名な剣道部の強い高校にスポーツ推薦で進学

ナインティナイン岡村氏への憧れから、芸人を目指すようになり17歳の夏にお笑い芸人になることを決意する

大学卒業後に上京し、NSC東京校へ入学

2019年、初の著書（この高鳴りを僕は青春と呼ぶ）を出版

2020年4月より、全国ネットのラジオ番組のメインパーソナリティに就任

現在、みやま市のふるさと観光大使を務める

幼少期はどんなお子さんでしたか

めちゃくちゃ人見知りで恥ずかしがり屋な子どもでした。全然人前に出るタイプでは無く、ザ・真面目人間でしたね（笑）毎日の楽しみはお笑い番組を見ることで、「めっちゃイケ」等を録画しては、繰り返し見ていましたね。スポーツは、小学生の時から剣道をやっていました。剣道を習い始めてからは、少しずつ人前で話せるようになった感じです。

小学生の頃は剣道の他に何か習い事をされていましたか

週3で剣道をやっていたので、剣道の思い出しかありませんが、少しでも習字を習っていました。

中学生になってからは、どのように過ごされていましたか

小学校の時は1クラスで、中学校にあがっても、さほど人数が増えることはなかったので、小学生時代の友人と変わらず遊んでいましたね。仲間内ではめちゃくちゃ話すけど、少し外に出たりすると依然として口数の少ない陰キャでしたね（笑）

中学校でも変わらず剣道を続けられましたか

剣道はずっと続けていましたね。僕らがやっていた時は剣道の顧問がいなかったんですよ。なので、自分たちで練習メニュー考えて部活をして、週に何度か、三橋町の強い道場に通って練習をしていました。指導者不在でしたが福岡県ベスト8までいきました。

当時、主将もやられていたのですよね 凄いですね（笑）

そうですね。強い道場に通っていたおかげだと思います。当時は、強くて有名な高田中学校（全国常連校）も倒すぐらい強かったですよ。そのおかげで、八女高校にスポーツ推薦で入学することができました。

八女高校時代はhowでしたか

公立高校で全国レベルの強豪校だったので、めちゃくちゃ練習もハードなんですね。しかも周りの連中も全国レベルの人間ばかりだったので、結局レギュラーにすらなれませんでした。最後の大会なんか、後輩たちが出ている試合をジャージで見届けるとい感じで、毎日鬼のような練習をしても、最後は涙すら出なかったという辛い思い出でしたよ。ずっと坊主頭で遊ぶこともなく、毎日部活ばかりしていたので高校時代は本当に辛いというか、きつかったという思い出ですね。

高校生活で部活以外の思い出を教えてください

部活以外、そうですね。やはり思春期だったので好きな人もできましたね（笑）でも、ちゃんと告白して、ちゃんとお断りされて・・・（笑）5回告白してようやく付き合ってもらいましたが、結局2か月で別れるという・・・。そんな甘酸っぱい思い出もありました。

今のご職業に繋がる事もあればお願いします（笑）

あ、すいません。剣道部の壮行会があって、そこには子どもと保護者が参加するんですね。家では真面目キャラだったんですけど、部活内ではお笑いキャラが定着していて、壮行会で出し物をしたんです。そしたら、友達の親とかが爆笑してくれて「光！お前、お笑い行けよ！」みたいな事を言われて、凄く嬉しかったのを覚えています。ただ、そこにいた私の親父は調子に乗っている僕が気に入らなかつたらしく、帰りの車で「あんまり調子に乗んなよ」と言われて殴り合いになるぐらいの喧嘩になりましたけどね（笑）

お父さんは、何に激怒されたのですか

多分、部活でレギュラーにも入れないやつが人前でヘラヘラしていることが気に入らなかつたんだと思います。家でも、レギュラーになれないと愚痴を吐いていたのに、ヘラヘラしているのがカチンときたんだと思います。

夢を現実にしていくため、ご両親には説明されましたか

初めて両親に「芸人になろうと思う」と告白したのは高校3年生の時でした。母親は本当にびっくりしていました。兄弟の中でも一番、大人しくて真面目だったので。僕は将来、警察官にでもなるのかなと思っていたらしいです。そんな息子が「芸人になろうと思う」って突然言ったので、信じられないという感じでした。

高校卒業してすぐにお笑いの道には行かなかったのですか

母親に相談したとき「今すぐお笑いに行かなくても、一旦勉強して大学行ってからでもいいんじゃないの」と言われて、1校だけ福岡大学の商学部を受験しました。これに落ちたら、お笑いの道に行こうって決めていました。

福大に進学されますが、1校だけ受験してよく受かりましたね

大学に行きたいという強い思いは無かったですけど、受験に対して手を抜くのは違うなと思っていましたので、本当に真剣に頑張りました。真剣に受験勉強している人に申し訳ないんですけど、落ちたらお笑いの道に行けるので、少しだけ「落ちてくれないうなあ」と思っていた自分がいたんですけどね(笑)

せっかく大学に合格したのに「お笑いの道」が頭から離れないんですね。坂田さんの何がそうさせるのですか

思い返すと、小学校の時から「芸人になるんだ」と思っていましたね。「なりたい」ではなく、「なる!!なるんだ」と思っていました。なので、僕の人生の物差しは全て「お笑い」という考え方でした。剣道をやっている時も、「剣道で日本一になれないやつが、お笑いでも成功する訳ないだろう」って思って必死に取り組んでいましたし、受験一つ成功しない人間が「お笑い」で成功する訳ないだろう。みたいな感じです。

幼少の頃から全ての判断基準が「お笑い」だったのですか

そうですね。お笑い番組が好きで、小学校の時に「お笑い芸人になりてえ」と思い始めてからは、いつかお笑い芸人になるんだと信じていました。今振り返ると「笑い」に対しては冷静に分析していましたね。どうやったら人は笑うんだろうとか、どの場面では笑うのかなとか。物静かな性格ではあったんですけど仲間内では笑わせることが好きだったので、よく考えて人を笑わせていた記憶があります。

真剣に笑いに貪欲だったのですか

そうですね。高校の時に部活紹介というものがあって、自分の部活をPRして新入生を勧誘するための出し物があるんです。そこで、野球部が女装してチアガールで踊って部活紹介していたんですね。それを見て「うわあ面白くないなあ。寒いなあ」って思っちゃって(笑)そこで僕は出オチ系ではなく、真面目に、顧問の先生に「コントやっていいですか」って言ったんです。部活紹介は自由なんで実際にコントをやらせてもらったんですけど、それが本当にめっちゃくちゃウケたんですね。そしたら後日、野球部の怖い人たちが呼び出されて、うわっ、ボコられると思ったら「お前、めっちゃくちゃ面白いな」って褒められて(笑)そのことが自分の中で「お笑い」に対する自信に繋がったかもしれません。

そのコントは真剣に考えて挑んだのですか

真剣に考えて戦略的にコントを考えていました。どうやったら面白いんだろうと。この部活紹介のステージは、自分を試す一種のチャンスだと思っていました。

頭の中で「お笑い」が出来あがっているのですか

そうですね。考えることが楽しくて仕方ありませんでした(笑)



そこまでお笑いが好きなのに、よく大学受験に取り組みましたね

ずっと大好きな爺ちゃんがいたんですけど、そのお爺ちゃんが大学に行くことを望んでいたんですね。爺ちゃんには「お笑い」の事は伝えていませんでしたが、「夢」はあるとは伝えていました。その時に「遠回りしてもいいから、ゆっくり行け」と言ってくれていましたし、爺ちゃんの想いもあって、受験に対して中途半端に取り組むのは、少し違うなと思っていたんです。

大好きな爺ちゃんに夢を叶えたことは伝えましたか

実は、その大好きなお爺ちゃんが大学受験の当日の朝に亡くなって……。本当に泣きながら試験を受けました。休み時間には爺ちゃんを思い出して、泣いたりして。でも、爺ちゃんが力をくれたのか、無事受かったんですけど、一番伝えたい人が、もういないので、伝えることはできませんでした。

大学生活はどうでしたか

大学が終わっては筑後の居酒屋でバイトしての繰り返しでした。芸人になろうという夢は諦めていなかったの、いつか芸人になれるチャンスもいつも伺っていました。

そんな大学生活の中で転機が訪れますね

「お笑いに興味があるやついないか」と1年以上、仲間内に聞いて回っていたんです。そしたら、友人の紹介で今の相方と出会うことができて。「一緒にお笑いを目指していきたい」ということを伝えて、めっちゃくちゃ口説きました。

第一印象はいかがでしたか

当時、相方がプールの監視員のバイトをやっていて色が真っ黒だったんです。しかもバリバリの茶髪だったんで、本当に見た目がウンコみたいな感じだったんです(笑)お互い顔を知らないから遠目から歩いてくるその姿を見て、「うわっ、まさかこいつじゃないだろうなあ……」と思っていたんですけど、残念ながらそのウンコが今の相方でした(笑)もう、出会って10年になりますけどね(笑)



コンビを組んだその日にコンビ名を決めたんですね

そうです(笑)売れるコンビ名にはダウンタウンやウッチャンナンチャンのように、「ン」がつくと言われていたので、その場で「サンシャイン」と命名しました。

その後、どういったコンビ活動をしていったのですか

福岡には大阪のようにお笑いのステージが全くなくて、最初のステージは西鉄久留米の階段を降りたロータリーで、ゲリラ的にやりました。そこで初めて知らない人の前でコントをやって、お笑いの現実を知ったというか、「人を笑わせる」ということが本当に難しいことだと知りました。

大学を卒業して東京吉本に行かれるわけですが、なぜ東京に決められたのですか

福岡出身ですけど、博多弁で言うより、みやま独特の訛りなので、大阪で自分が関西弁を喋るイメージが湧かなくて。それだったら東京で標準語でやっていった方が良さかと思っていて、でも東京来て10年、未だに訛ってますけどね(笑)

福岡の代表格となられた、博多華丸大吉さんは東京在籍となるんですか

博多華丸大吉さんは福岡よしもの1期生なんですね。今も福岡よしもとはありますが、養成所は無いんです。もともとオーディションや大会が福岡にはあって、そこで結果を出して吉本に所属するという流れがあったんですね。カンニング竹山さんとかも、そういった大会で優勝して福岡よしもとに所属してデビューした経緯がありますが、僕が大学を卒業する時には、その制度がもう無かったので必然的に東京か大阪の養成所に行くことになります。

吉本の芸人さんになるには養成所に行くというのが流れなのですね

基本的にそうですね。大阪ではオーディション形式で勝ち上がったプロになる方法は残っている

みたいですけどね。今、売れっ子の霜降り明星は同期ですが、霜降り明星は高校の時にオーディションで勝ち上がって吉本に所属したコンビなんですね。高卒からオーディションで勝ち上がって成功しているのは霜降り明星ぐらいじゃないですかね。

NSC※時代はどうでしたか

僕らの時は東京に1,000人、大阪で600人の生徒がいました。本当に熱気が凄かったんです。でも、ちょうどNSC卒業する時に東日本大震災がきて一気にお笑いどころじゃないって空気になりました。ライブもTV番組も終わって、地獄の芸人生活がスタートしました。
※NSCは新人タレントを育成する目的で作られた吉本興業の養成所

NSC卒業後はいかがでしたか

震災後でお笑い関係の仕事も一切なく、本当にバイトばかりやっていましたね。少しずつライブとか始まりましたけど、1回のギャラが500円とかなんで・・・(笑)バイトして生きていくしかないですね。その当時のライブでは、だいたい5軍ぐらいの κατηγοリーに振り分けられているんですけど、自分らは4軍ぐらいで、2軍にチョコブラさんや1軍にジャンボケさんとかいました。コロコロチキチキベッパーズとかも同期なんですけど、あいつらも一気に売れていって「うわぁ、同期がどんどん売れていく・・・」となり、多少スランプみたいなのを感じていましたね。

結果が出ない事で芸人を諦める事はありませんでしたか

母親が脳梗塞で倒れたんです。その時は本当にショックで、親孝行も何もせず、仕事で結果も出さず好き勝手に何をのうのうと自由に行ってるんだらう。地元に戻って親を安心させてあげたほうがいいのかなど、初めて芸人を辞めようと考えました。

お母さんは大丈夫だったんですか

母親の状態が悪ければ介護の為に帰ろうと思いましたが、意外と元気でしたし、芸人をやっている自分を応援してくれるのでまだ頑張ろうと思えることができました。

苦しい芸人生活の中で転機が訪れるのはいつ頃でしたか

今までで最高の成績にもなるんですけど、キングオブコントの準決勝に初めていけた事で知名度も一気に上がり、周囲からも認めてもらえるようになりました。

その後はいかがですか

キングオブコント準決勝進出からは、あまり入賞とかも無くて長年付き合っていた彼女からもフラれて、またまた人生が落ちていくんです。

その女性にはプロポーズもされたんですよね

プロポーズしたんですよね。そうなんです。7年付き合った彼女にプロポーズをしたのに断られて・・・。「7年付き合っ、プロポーズ断られることあるんだ!??」と青天の霹靂でした(笑)芸人をやっていることや、将来的なことを考えて、僕と一緒にでは不安だったんだろうなと思います。

そんな、ご経験を踏まえて、初めての著書

「この高鳴りを僕は青春と呼ぶ」を出版されましたが反響はいかがでしたか

このインタビューみたいに僕自身の半生を赤裸々に書いた本なんです。本の中にもありますが、芸人を目指すきっかけになったのが「めちゃイケ」だったんです。なので、憧れの芸人さんと言えばナインティナインの岡村さんなんです。憧れの人が僕の本を読んでくれて、手渡しできることがありました。もう反響どころか、めちゃくちゃ嬉しい瞬間でしたね。

芸人は収入面が厳しいという話を聞きますが実際はどうですか

芸人をはじめて5年目ぐらい経った時ぐらいから、死なない程度に給料をもらっていましたが、バイト無しではとても生活できませんでしたね。売れていない時に、時給が良いバイトってことでパチンコ屋でバイトするんですけど、そこでパチンコを覚えてしまい、時間がある時はパチンコに行くという生活をしてしまって、本当にお金がありませんでしたね(笑)でも、現在も放送されている週5日でラジオのレギュラー放送(スクールオブロック)が決まってからは、バイトをしなくても良いほど給料をもらえるようになりました。

レギュラーが決まったラジオを拝聴しましたが結構熱い内容ですよ

そうですね。全国放送で悩みのある高校生などの学生さんと話をしたりするんで、本当に体力と気力が必要なんです。なので毎回ハードです。

夢だった「芸人としての生活」はいかがですか

芸人って笑わせる仕事なんですけど、実は自分自身もめちゃくちゃ笑っているんです。「芸人」という環境って毎日面白い人間が生活の中に存在するので、いつ、どこでも笑いが存在するというか、常に笑いが絶えないんです。なので、芸人生活の虜になってます(笑)

最後に子ども達にメッセージをお願いします

やりたい事がみつからないとか、夢がないって思う子が結構多いと思うんです。きっと、その子達も「好きな事」ってあると思うんですね。きっと「その好きな事」をことん追い求めた先に「夢」って見えてくると思うんですね。なので、今の子ども達には、胸を張って、好きなことをやってくれたらと思います。

坂田さんにとって、「お笑い芸人」とは

人生の失敗とかを 笑いというプラスの面で受け止めることが出来る 「マジで一番カッコイイ最高の仕事」です。





モデル 江口雅也

えぐち まさや (モデル)

1983年4月29日生まれ みやま市瀬高町出身
柳川高等学校卒

小学校の頃よりバスケットボールと出会い高校を推薦で進学するほどの実力を持つ
社会人になり生協やコココーラボトラーズ(株)へ就職
24歳の時に一念発起で上京。

いくつもの苦悩と挑戦を続けながらモデル事務所を渡り歩き、2011年に現在のHEADSコーポレーションに所属
ミラノコレクションやTV-CM (RAIZIN・ABC マート・サントリー・ユニクロ・AOKI) や
雑誌 (メンズノンノ・2nd・ワッグルゴルフ) と他多数出演

幼少のころはどんなお子さんでしたか

小さい頃は、引っ込み思案なところがあったと思います。でも、ひょうきんな部分もあって、面白いことをしたいけれど、恥ずかしくて人前で目立つことが出来ないタイプだったかもしれません。

小中学校で何か習い事はされていましたが

小学4年生の時に担任の先生に誘われて、ミニバスケットを始めました。小学生から中学2年生にかけては、あまり上手じゃなくて、よく先生から叱られていてバスケットが好きでは無い時期でした。中学3年生を境に、急激に身長と脚力が伸びてバスケットの役割的なものを理解し始めてバスケットが好きになってきました。

バスケット以外は何かやられていましたか

性格もあるんでしょうけど、あれこれやれるタイプでは無かったので、本当にバスケット一筋でした。本当に勉強なんか一切していませんでしたよ(笑) 小学校の時なんか宿題のプリントを家に持ち帰る前に捨てたりして。そして次の日学校に行って「無くなりました」とか言って(笑) 全く宿題やらない子どもでした(笑) 勉強は全くダメでした。

小中学校の時は女子にモテていましたか

ミニバスケットをやっていた時は、他校に練習試合に行くとき女の子に声かけられていた程度ですよ(笑) モテるとかいう感じでは無いです(照笑)

高校時代はいかがですか

バスケットがうまくなったおかげで、高校は柳川高校に特待生として入学したんですが、ここの部活が本当にハードで、年間365日のうち360日ぐらいバスケットをやっていました。休みはお盆と正月だけみたい(笑)

当時の柳高バスケット部は相当ハードな練習量という感じでしたよね

本当に苦しい日々だったと記憶しています。そんな当時の先生の言葉で、社会人になっても耳に残っている言葉があるんです。それは、「バスケット馬鹿になるな」という言葉なんです。

どういう意味だと思いますか

おそらく、将来バスケットで飯を食うんだっらいでしょうけど、結局はそうでないことが多い。つまり、バスケット馬鹿になってのめり込むのでは無く、常にピュアな気持ちでバスケットを好きであって欲しいという事だったと思います。この言葉は、今になって凄く理解できるというか、身に沁みますね。仕事でも何でもそうですが、それ自体に飲みこまれるのではなく、常に自分が好きという状態で物事に取り組む姿勢が大事ということだと思います。当時は、わかりませんでした。今になって凄く理解できますね。

高校卒業後はどうされてましたか

卒業後は夢も何もなくて。とりあえず仕事しないといけなななと思いつつも、実際は何もしてなくて、フリーター状態でした。でも、とりあえず働かなきゃと思い、生協のトラック募集の広告に目が止まり、トラック配送の仕事で準社員で2年ぐらいやっていました。

夢や、やりたいことなどは無かったですか

何も考えて無かったです。とりあえず仕事しながらでもバスケットはしたかったので、先輩たちが作っていたチーム(セルフフィッシュ)に週2ぐらい練習して、たまに試合とかする生活でした。

生協の仕事はなぜ辞められたのですか

21歳ぐらいの時だったと思います。細かく話す事は出来ないのですが、実は家族間のトラブル

があったんです。本当に生活苦に陥りまして、稼がないといけない状況になりました。当時の私の給料ではとても生活できない状況でした。昼は生協の配送業をしながら、夜はアルバイトをしていましたね。遊び盛りで彼女もいたのに生活苦に陥り、本当に絶望を感じていた時でした。なので、当時は楽しく過ごしている周りの連中が妬ましく、自分の環境も嫌になっていました。しばらくして、知り合いの方から職場に空きが出たということで誘ってもらいまして、そこから正社員として働けるようになりました。大手のコカ・コーラなどで本当にありがたかったですね。採用試験の点数は非常に悪かったらしいんですけどね(笑)

正社員として働き始めていかがでしたか

仕事の面においては、約4年働かせてもらって、人付き合いの大切さなど多くの事を学ばせてもらいましたね。でも、自分の苦しい環境も

あってか、他人と自分を比較するとか、人を羨ましく思い、ずっと自分を良く見せようとしていたと思います。そして、大きい組織に入って気づいたんです。「自分は企業の中に属して生きることは出来ない人間」なんだと。

サラリーマンが嫌になったのですか

決してサラリーマンが悪いとか嫌ということではなくて、24歳ぐらいの頃から、自分自身の力だけで何か始めたいと思って、上京することを考え始めていたんです。世の中には、色んなことをみつけて挑戦して成功している人が沢山いる中で、自分がこのまま会社にいたら、そっち側の人間にはなれないなと思い始めていました。

それでモデルを目指すようになったのですか

いえ、とにかく自分で頑張って自分が評価される仕事をみつけたいと思っていました。自分の兄の知り合いの方で東京の銀座で整体師をやっている方がいたんです。まずは、その方を紹介してもらい、休みを利用して少しだけ会いに行っただけです。会って話をしたら凄く刺激になって、この人から学んで、いつか自分で独立したいなと思い始めていました。

整体師を目指したのですか

そうなんです。なので、お金を貯めて東京に行こうと思ったんです。しばらく貯金をして上京資金を貯めていました。でも、大きな事を見落としてしまっていて……。実は整体師には免許があることを、しばらくして知ったんです(笑)てっきり整体師って「師匠の背中を見て学べ」的な感じと思っていたら、しっかり専門学校を卒業しないと成れない事がわかりまして(笑)完全に計画が狂いました。

そこからどうされたんですか

自分は東京に行くんだと思って、貯金していたんですね。しかも、もう行く決めていたので、整体師になりたいと夢を語って辞表も提出済みでした。

とんでもない見切り発車ですね(笑)あまりにも勢いがある話なのですが(笑)

そうなんです。完全に計画が狂ったので、どうしようかなとなりまして……。貯金したお金を専門学校に充てると無くなっちゃいますし。辞表も出しているし……。

それでどうされたのですか

そんな時に、いつも髪を切りに行っている美容室に行って、美容師をしている高校の先輩にどうしようか悩んでいると話したんです。そしたら「東京に行くんだしたら、この辺には無くて、東京でしか味わえないことにチャレンジしたらいいんじゃない?」と言ってもらって、凄く気持ちが軽くなりましたね。自分自身の魅力だけでチャレンジできるものを東京でやろうと思いました。

そこからどういう行動をされましたか

とりあえず、東京にしかないモノと言えば、やはり芸能系かなと思い、インターネットで検索して、良さそうな事務所に3件程メールしました。そしたら、その内の1件から返信があったので1日休みをとって、日帰りで東京へ面接に行きました。

凄く行動力ですね(笑)何か「自分の魅力で勝負がしたい」という想いだけで東京を目指したんですね

そうです。会社組織に属するのが嫌になって「江口雅也」として勝負ができる場所に身を置きたいと思い、東京を目指しました。そして、たまたま受かった事務所がモデル専属の事務所だったというわけです。

いや、プロセスが凄いやというか流れに身を任せているというか(笑)

多分、コカ・コーラの仕事をしていた時に、高身長の人間なんてそんなにならなくて、職場の人やお客さんから「良か、男ね♡」「俳優さんみたいね♡」言われていた事が、少し頭に残っていたんだと思います。なので、

挑戦するなら芸能系かなと思っていましたね。まあ、普通の人が聞くとアホかな?と思いますよね(笑)

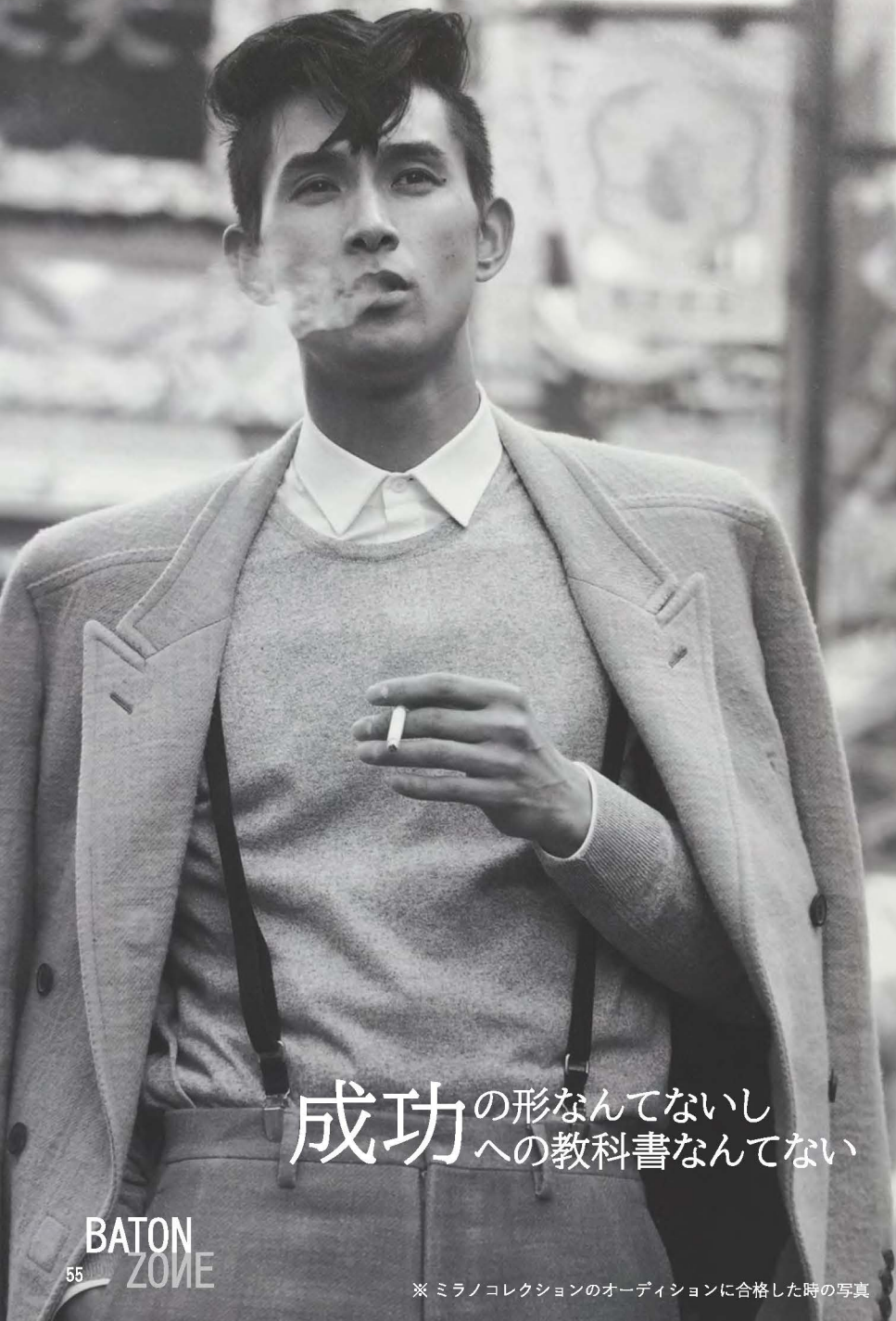
実際に東京に行かれていかがでしたか

事務所では、まず写真の撮られ方・ポージング・ウォーキングなど週1でレッスンがありました。自分は右も左も分からずに東京に来ているので、その社長の言う事を真摯に受け止めて、「よし頑張ろう」と意気込んで休まずレッスンに励んでいました。でも、最初だからか、全くモデルの仕事が無いんですよ。なので、週6でアルバイト、週1レッスンの日々が続いていきました。

モデルになるために上京したのにアルバイトの毎日は辛いですね

モデルの仕事は基本的にオーディションに参加して、採用されるかどうかが決まるんですね。





成功の形なんてないし
への教科書なんてない

その事務所は、オーディションが2か月に1~2回程あるぐらいなんです。何もわからない僕はモデルの世界なんて、やはりこんなもんかと思っていたんです。でもいよいよ、「あれ?おかしいな」と思い始めたんです。まず、この事務所に売れているモデルが一人もいない。そんなもってレッスン料に毎月2万円徴収される。仕事につながるオーディションは、年間で4,5回あるか無いか……。あれ??と。

何かに気づいたのですね(笑)

2年経った時に、これはマズイなど。

それから事務所移籍を決めたのですか

そうですね。基本的に、モデル業だけで生計を立てたいという強い思いがありましたから、最初の事務所を辞めて27歳の時に縁があって今の事務所(HEADS)に入りました。移籍してびっくりしましたよ。ひと月にオーディションが5・6個あるんですから(笑)全然違う!圧倒的に違うと(笑)

新しい事務所で仕事は増えていきましたか

少しずつですが、モデルの仕事が増えてきました。それでもアルバイトは続けていきましたよ。ケンタッキーのデリバリーサービスの仕事とか。本当にお金が無い時は治験のバイトとかもやっていました。でも、29歳ぐらいの時ぐらいに、仕事が良い流れになってきた時があったんです。ここで思い切ってバイトを辞めないと、これからはバイトを辞めることができないなと思いついて全て辞めました。それからは一切バイトをしていませんね。

いよいよ本格的にモデル業一本でやっていくわけですね

そうです。まずは29歳の時に海外のショーに挑戦しようと思い、めちゃくちゃダイエットして身体を鍛えてスタイルを作って挑戦しました。モデルって、まずは自分で「BOOK」という宣材用の写真をまとめたものを作らないと

いけないんですね。そのためにも、しっかりと見栄えの良いスタイルを作らないといけないんです。

海外への挑戦は所属している事務所からの紹介などで行くのですか

いえ、所属している事務所は国内の広告やCMメインの事務所なので、海外との繋がりはありません。海外ではファッション系のショーに出るのが目標だったので、特に事務所からの後押しはありません。

どういことですか

先ほど言った通りBOOKという宣材写真を自分で用意して自分の足で海外の事務所にアプローチをかけていくんです。インターネットでパリ・ミラノ・ロンドンの事務所を探しまくって1か月間だけ単身で乗り込んで行っただけなんです。

いや、また勢いが衰いんですけど(笑)

そもそも英語は話せたんですか

いや、全く(笑)「俺は日本から来たんだ。俺はこの事務所に入りたいんだ」と調べた単語を並べた紙を片手に事務所を10件ぐらい自分で売り込みにいきましたね。

いや衰いですね。てっきり海外の仕事って、事務所の後ろ盾があって日本で話をまとめてから移動して本番のショーにでるというイメージでした。

後ろ盾なんか全く無いです。今までの僕の人生の中で一度も「後ろ盾」なんか無いですよ。常にチャレンジャーとして、挑戦しているんです。

その挑戦する想いというか、力が衰いですね

多分、僕自身、頭が良かったら物事を始める前に色々と考えて行動していたと思うんですが、あまり頭が良い方では無かって自覚しているんで(笑)今まで感情や行動や想いしか学んできていないのでそれが良かったのかもしれない。今は、もうしっかりと考える大人です(笑)

苦労がながらも海外のショーにデビューできたのですよね

そうです。パリとロンドンは何回行ってもダメでしたけど、ミラノの一つの事務所だけは感触が良かったので、頼みに頼み込んでようやく契約してくれることになったんです。持ってこられた契約書は英語とイタリア語しか記載されていないので、全く意味不明のまま名前のところだけサインしましたけどね（笑）

ようやく、ミラノの事務所が決まってミラノコレクションに挑戦できる権利を得たのですよね

そうです。まずは事務所所属しないと、オーディションにすら入れませんので、ここでようやくスタート地点です。ミラノの事務所が決まって、一時帰国して、もっと身体を鍛えてBOOKの写真を強くしなきゃと思いました。そこで、当時仲の良かったLANVIN（ランバン）のPRの方にお願いして、図々しくも洋服を貸してもらって宣材写真を色々工夫してきました。そして、準備が出来てすぐに再度ミラノへ飛びました。後々聞いた話なんですけど、雑誌とかであれば、クレジット※があるのでレンタルできるんですが、一個人のモデルにLANVINが100万円前後する洋服をタダで貸し出すなんてありえない話だったらしいです（笑）※雑誌にブランド名が表記されること

ミラノコレクションの挑戦はいかがでしたか

本当にミラノコレクションの枠は狭き門で、特にアジア人なんてなかなか使ってくれないんです。身長も185cmってギリギリのラインなんです。

オーディション会場では、隣にいる外国人が身体バキバキで、身長は僕より高いのに、顔は小さいみたいな人がゴロゴロいて、もう、ダメかなあ・・・と諦めかけていた時に、とあるオーディションで、ひとつの宣材写真が目にとまりオーディションに合格したんです。それがLANVINの写真でした。そのおかげで2012年にミラノコレクションデビューを果たすことができました。

ミラノコレクション後は日本で活躍の場は広がりましたか

世界的に有名なミラノコレクションに出たので、きっと日本でも通用すると思ったんです。ファッションの仕事が増えると確信して意気揚々と帰国しました。でも、現実とは全く違っていました。実はファッション業界のモデルは単価が安く、1回のショーに出演しても3万～5万ぐらいのギャラなんです。海外のトップモデルや有名ブランドの専属とかじゃない限り、ファッションだけで飯を食うことは出来ないって事がわかったんです。そこでモデル業でしっかりとお金を稼げる人間になろうと思い始めました。自分の宣材写真はカッコいいより、笑顔を増やし、企業が使ってくれそうな雰囲気づくりを意識していきました。

実際、モデルって給料はどのぐらいなのですか

モデルは個人事業主なので、給料ではないんですが、入って最初のギャラは4,500円でした。せっかく良い事務所巡りに合えたのに、その明細を見た時は悔しくて仕方ありませんでした。

もっとモデルとして稼げる人間にならないといけないと思い、努力を重ねて、今は平均70万～90万程もらえるようになりました。当時の何十倍も稼げるようになりましたね。

モデル業の中では稼いでいる方なのですか

メンズモデル業界の中では珍しく稼いでいる方かもしれませんが。モデルは「カッコイイモデル」を目指すか「稼げるモデル」を目指すかによって大きく変わります。僕は、世の中の需要を感じ取り笑顔や爽やかさが感じ取れる「稼げるモデル」へと進んでいきましたね。

非常に考え方が柔軟ですね。ミラノコレクションに出演した後だと、もっとファッション系に固執してしまいうような感じがしますけど

色々周りの意見などを良く聞く方なので、自分のやりたいことだけをやるっていうのは違うかもしれませんね。整体師からモデルへ切り替えたのも、ファッション系から広告系のモデルへ方向転換していったのも、結構すぐに柔軟に対応していききましたね。僕は若い時にお金で苦労をしました。お金の大切さを知ったし、お金の怖さも知りました。なので、しっかりとプロとして稼げる人間にならないとプロとは言えないのかなと思います。お金がなくてもカッコ良く生きていけば良いという考え方は好きではありませんね。

最近はどのような活動をされていますか

最近では、福岡で活動の場を広げていくための準備をしています。タイやシンガポールなど海外での経験も増やしていっています。

やはり日本にばかりに固執してしまうと感覚が鈍る時が出てくるので、常に自分に負荷をかけて何かにチャレンジしていくように心がけています。

今を生きる子どもたちへメッセージをお願いします

生きていくうえで、色々な経験をしていかないといけないと思います。日本でも有名なスポーツ選手や偉大な方も、貧乏を経験したり、コンプレックスがあったり、失敗を繰り返したり、多くの経験をしてきたからこそ、成功に繋がっていると思います。みんな、「成功」したいと思っていると思います。でも、世の中に「成功」の形なんてないし、「成功」への教科書なんてない。全ては、自分でやってみて、「失敗」を繰り返していくことで形作られていくものなんです。僕は決して頭が良い方ではありませんでした。それが、ひとつのコンプレックスでした。けれど、そのコンプレックスのおかげで、人の意見を取り入れるし、頭より先に行動をしてきた事で今に繋がっているんだと思います。みんなも、チャレンジすることを恐れなくて、自分の今好きなことや夢を、まずはやってみてください。

最後に、江口さんにとって「モデル」とは

モデルって見た目だけ良ければ良いってわけではないんです。今の時代は見た目がカッコ良いから、綺麗だから、とかでモデルにはなれないんです。今まで生きてきた、嫌な事・コンプレックス・嬉しい事・チャレンジしたこと・・・すべてが僕自身になって映し出されている。だから「モデル」というのは、生きてきた証を表現する仕事です。



この本に出てきた7人は、
本気で夢を追いかける君たちを応援しています。

この本を読んでみて
この7人に、直接聞いてみたいことや、
相談したいことがある場合は、
下記の公式InstagramへDMもしくは、
公式のメールにご連絡ください。

最前線で活躍する人と繋がるができます。

#1万件ポストプロジェクト推進委員会



— Editor

#1万件ポストプロジェクト推進委員会

Insta : @miyama post

Mail : info@miyamapost.com

— Interviewer & writer

MITSUO KOYANAGI

Insta: @mitsuo1116

— Art director & designer

VMBW

Insta: @vmbw_official

— Photographer

ゆい / 中澤優衣 (LOVEGRAPH) カヨカメラ

Insta : @yui_maluco

Insta : @kayo_kamera

佑汰

Insta : @t.uotani_3780

この本は、(公社)大牟田法人会の支援を受けて製作しました



FUTURE AND PAST TO YOU

from

TAKAAKI_MATSUO
TOMOFUMI_MIYAZAKI
NORIKAZU_ODA
ERIKA_MATSUO
ASAMI_CHOU
HIKARU_SAKATA
MASAYA_EGUCHI